明治三十三年七月二十日發行（明治三十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

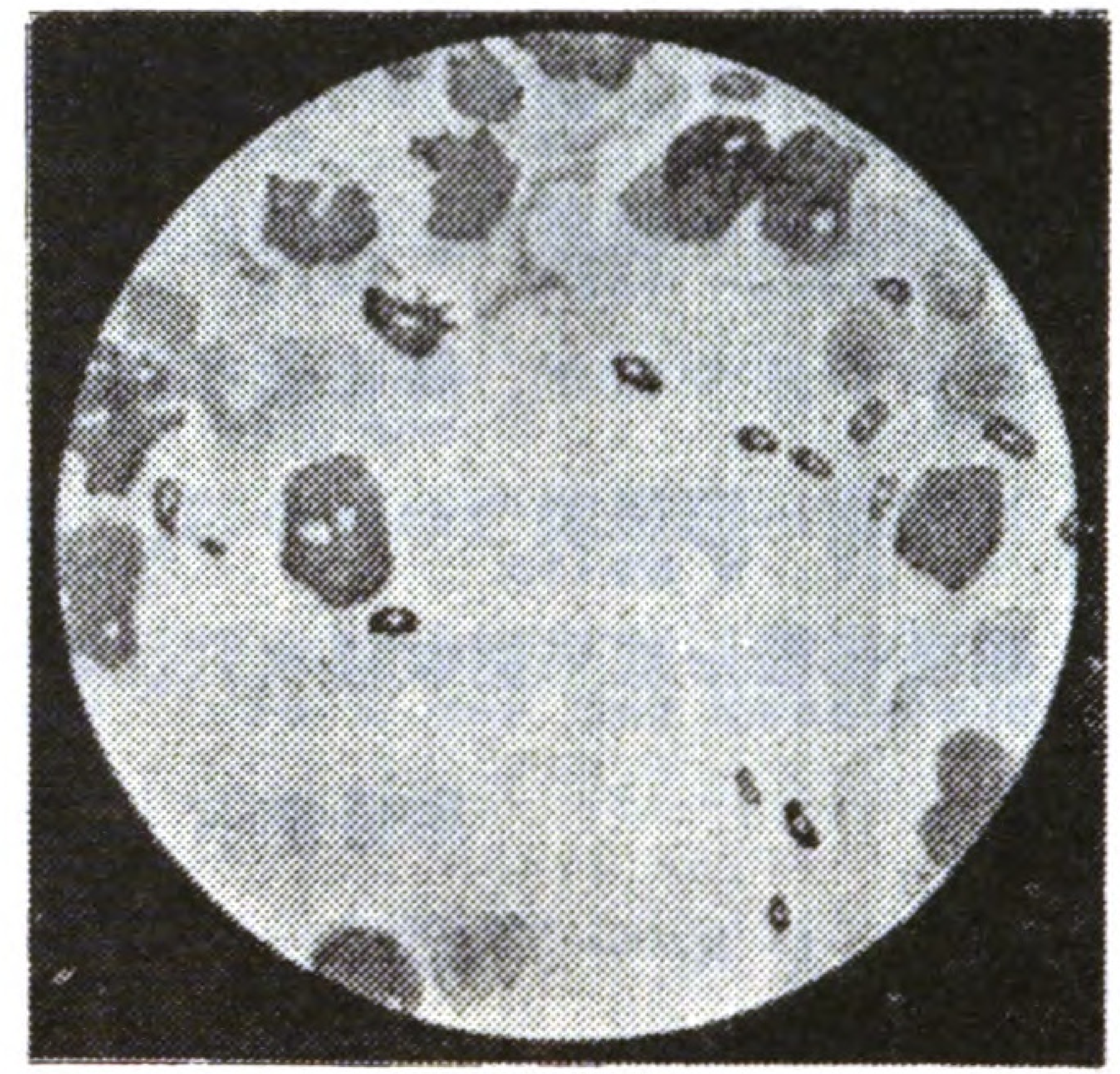
第百貳拾八號

私立大日本婦人衛生會

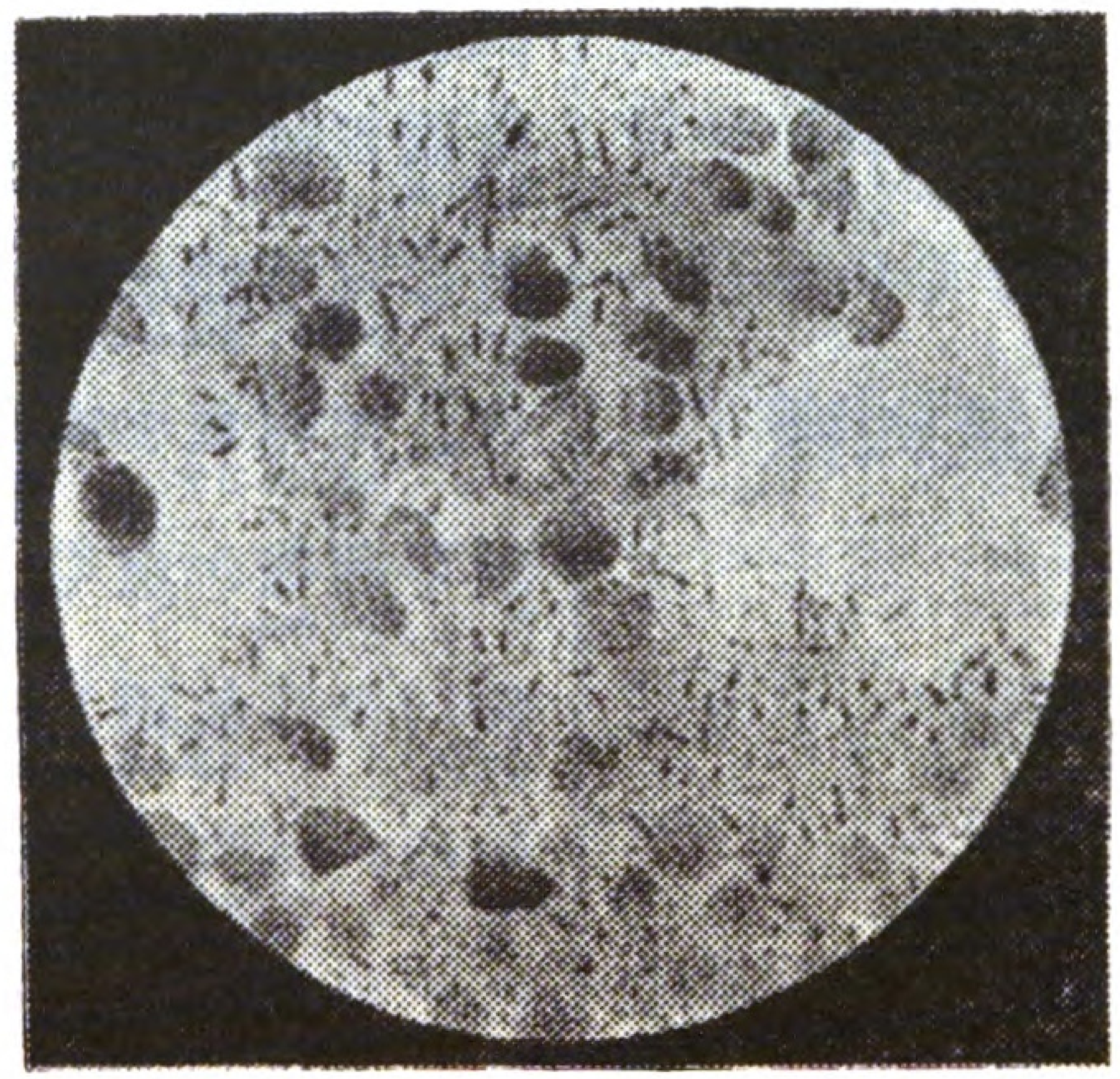
婦人衛生雜誌 第百貳拾八號 目次

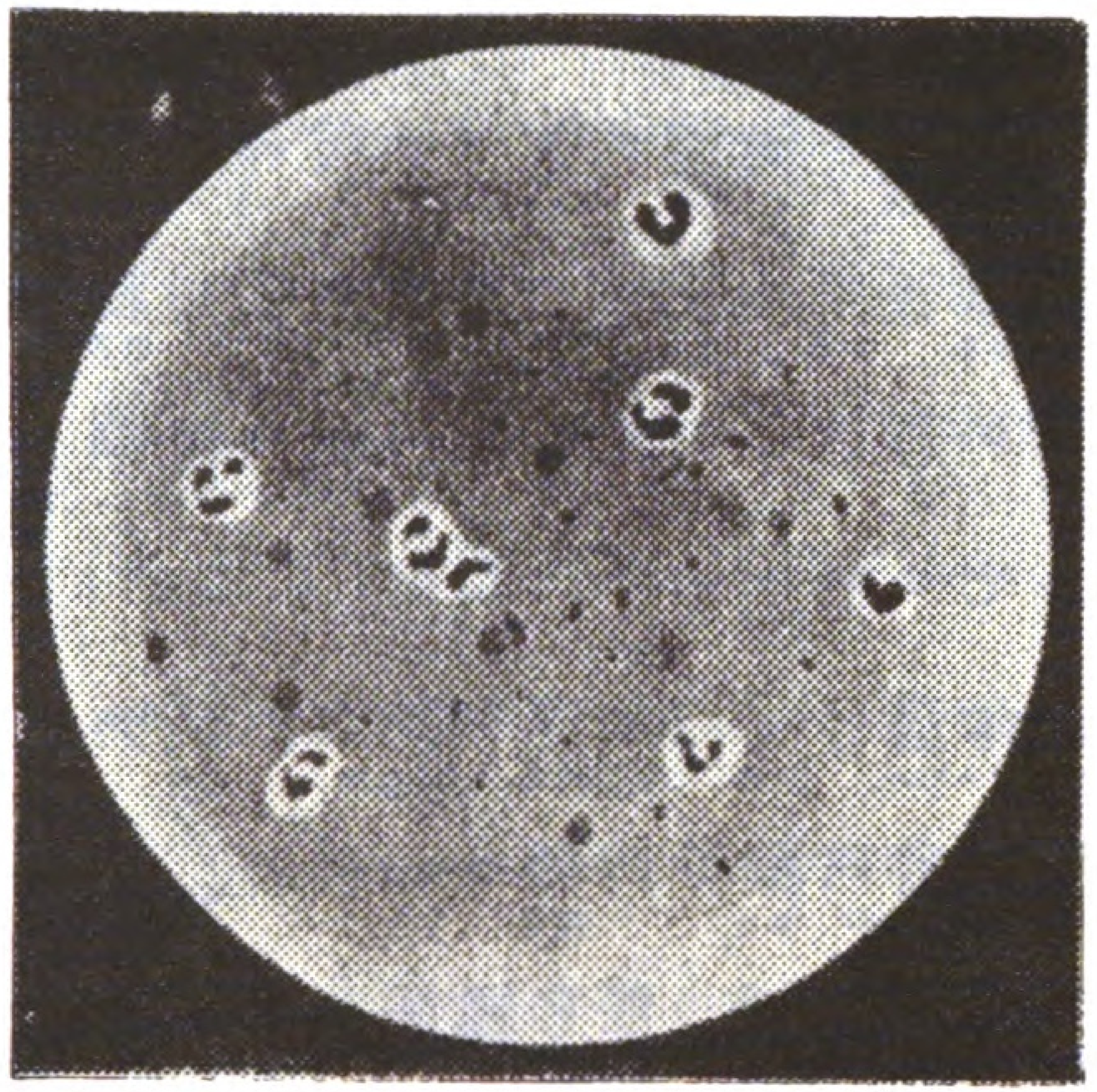
顯微鏡下に於けるペスト菌

エルザンペスト菌



北里ペスト菌





肺ペスト菌

婦人衛生雜誌第百二十七號
（明治三十三年七月二十日發行）

講　演

ペストに就て

醫學博士　緒方正規君演

總裁宮殿下幷に諸貴婦人に、今日私がペストのことに就て御話致しまするは、私の最も光榮とする所でござります、傳染病の流行と申しますものは國の生產力を殺滅し、又國の產物の輸出を減少し、或は減殺して、國をして貧苦に陷らしめるものであります、我國に於きまして第一の國產であります所の絹幷に生糸の輸出の如きも、傳染病が流行致しますれば其輸出が減縮し、或は全く止まると云ふことになります、我國の第一の國產たる生糸であれ、絹であれ、之を海外に輸出し、其代りに海外より酸素に酸化しない金屬及び他の物品の還入て全國に供給をするのであります、が我國に流行病が盛になりますると其貿易通商が充分に行はれなくなります、又第二には我國は山川の風景に最も富み、又海水浴と云ひ温泉と云ひ、誠に富んで居る所の國柄であります、其風景を見或は浴場等に遊びに參りまする、各國の人が隨分多く、其各國の人は皆財を齎して之を我國に置いて行くのでありまするが、殊に「ペスト」病が流行致すと云ふことになりますれば、誰も其身の危險を顧みて我國に遊ぶ人も少なくなつて來る譯であります、又從つて我國が富源を失ふと云ふことになり、第三にはペストが流行致しますれば農工商の業共に衰へて其害は決して少なきことではないのであります、故に各人注意を致し、國民擧つて其病氣の流行を防がねばなりません、

傳染病の中でも最も猛惡なる毒性を有せるものは「ペスト」でありて、其ペスト病は病の經過甚だ急激であるのみならず、其死亡比例最も多くして他の傳染病の及ぶ所に非らず他の傳染病なる虎列刺の如き赤痢病の如きは一地方に流行するも一二年或は二三年、にして其地方の流行は歇みます、併しペスト病は一度流行致しますと其土地に病毒固着して容易に其跡を絶つことが出來ません、即ち永く流行が續くと云ふことであります、其事柄は香港に於ても明治二十七年以來、孟買に於ても、二十九年以來、臺灣に於ても明治二十九年以來其病氣が流行し、毎年々々其流行の跡を絶つとがないのであります、ペスト病は古來 幸に我國には流行なかつたのでありますが、西洋並に印度支那地方に於ては隨分古より流行致したのであります、即ち今を去ると二千有餘年前に、歐羅巴に流行致したのみならず全地球に殆ど擴がつたのであります、それで此流行はどの位續いたかと申しますと、五六十年間次續し其流行の爲めに多數の人の住まつて居ります都府の如きも甚しく慘狀を極め、多數の場所は其流行の爲めに人民亡滅せりと云ふ、爾來又千四百年計り前に該病の流行あり、其流行も矢張り世界に擴がつて前申した通りの慘狀を極めたのであります、が其流行の始發は何處であつたかと、申せば矢張り此度の流行の始めの如く支那であります、それより印度幷に歐羅巴に擴まつて、遂には北極に近い所の國までも流行し、等しく前述べた通りに都府に於ては人が死に絶へたと云ふ位に至つたのであります、而して「ペスト」病が亞細亞地方より外の國々に傳播し擴まりたるは、何に依つて擴がるかと申しますと、矢張り通商貿易に依つて擴がるものであります、西洋の曆で申しますれば十四世紀の「ペスト」流行に於ても獨逸國一ケ國で

(我日本より少し小さい國でありますが)百五十萬程の人がペストの爲めに斃れたと云ふ、東洋では其流行に於て死亡した者が二千四百萬位はあつたと申しますから、殆ど日本の人口の半分位は「ペスト」の爲めに東洋で斃れたのであります、其後十六世紀に於ても數回「ペスト」の流行がありシヽリア並にトナウ河の近傍に於ては、前世紀にも屢々流行あり、歐羅巴の最後の「ペスト」流行は、今を去ること三十年前でありますが、露西亞のアストラハムと申します る所で流行あり。其後ペストは世界に絶えた位で唯書物にペストのとは書いてある位にして之を實驗せる人も甚た少なかりし、然るに此度支那香港臺灣印度並に歐羅巴の一局部に「ペスト」が流行することになつたのであります、

今回の「ペスト」の一番始めは、前申した如く矢張り支那が一番原であつたと云ふことは疑はないであります、即ち明治二十七年一月に支那の廣東と申す所に「ペスト」が發生し、それより續いて同年の五月香港にペスト病が發生して、我が政府より青山北里の二博士並に助手等を香港に派遣されて、其病氣の研究を爲さしめたのであります、又同氏等の香港に到着せられ一二日後れて佛蘭西よりエルザンと云ふ醫師が香港に來て研究をせられたのであります、北里氏は香港に到着になりましてより五六日目にペスト病毒を發見したと云ふことを我政府に電報せられたのである、青山博士は香港に於て不幸にして其病氣に罹られ、隨分重症でありましたが幸に回復したのであります、今申したエルザンと云ふ人も、此一行と關係なく「ペスト」病毒を發見せられて、其成績を公にせられたのでありますが、併しエルザン氏と北里氏の發見したものとは同じ黴菌ではないのであります、其後香港に於ては年々ペスト病が發生し、

廿九年には山極博士と私は各々助手を伴つて、臺灣同病の研究に參りましたのでありまするが、其成蹟を日本の醫學雜誌或は獨逸の醫學雜誌に報告したのであります、其後も年々臺灣に於ては「ペスト」の發生しない事はないのであります、昨年に於ても臺灣に二千五百餘名の死亡者があつたのであります、夫れから印度の孟買に於ては、明治二十九年九月より翌年四月に至る迄に二萬以上の「ペスト」死亡者あり其後印度に於ても年々數萬の「ペスト」死亡者あり、昨年十月七日より十四日に至る一週間に、印度に於て「ペスト」病に罹つて死亡せる者五千八百六人、其前週間には六千七百〇七人程ありましたが、十二月に至つても「ペスト」が絶へずして、一週間に二千人乃至三千入罹り、相應の死者あれり、又昨年は葡萄牙のオポルトと云ふ港に發生して、其港は流行地となりましたのであります、即ち昨年六月五日より十二月に至る迄に、オポルト港に於ても二百餘名のペスト死亡者がありたるのみならず他の近接せる都府に漸々病氣が擴がつて、歐羅巴諸國に於ても漸次に「ペスト」が廣まらんとする處であります、夫故に歐羅巴各國に於ても「ペスト」の豫防、及び撿疫法を實施しなければならんと云ふとに至り、又露西亞のアマトラス及びオデッサに於ても「ペスト」發生し、又昨年は牛莊にも盛んに流行せるのみならず南亞米利加にも發生し今年に至つては布哇に發生し、又亞米利加の桑　港に於ても「ペスト」病患者ありたる報告があります、明治三十二年には不幸にして內地の神戸港に大坂市にペスト病發生し、其後今年一月に至りますまでに、神戸と大坂に於て六十四名のペスト患者あり、其中五十八名死亡したのであります、其外の地方、廣島、福岡、長崎、濱松、和歌山にも各一名の「ペスト」患者ありて皆死亡致したのでありま

す、昨年十一月に於て神戸に「ペスト」發生せしに依つて、北里博士も神戸に出張され、私並びに中濱博士も矢張り神戸に赴いて病毒の檢査幷に該病傳播の模樣等を取調ましてございます、「ペスト」の病氣は最初北里氏の發見された病毒とエルザン氏の發見された病毒とは、同一のものであると歐羅巴の學者も信じたのでありまするが、私が臺灣に於て其病氣の研究を致したる成績に依ると、「ペスト」病毒はエルザン菌であると云ふことを證明致しました、其以來は北里氏の「ペスト」菌は病原菌としては信ずる者は無いことになりました、又昨年神戸に於ても北里氏が申しまするのに「ペスト」病原菌は貴君等の説の如くエルザン菌であると云ふことを言はれたのであります、其後私は復た神戸の避病院に入院せる「ペスト」患者に就きて、其內臟幷びに血液等を一々取調べ且つ私等の神戸到着前に「ペスト」疑似症にて死亡せる數多のものに就て其內臟及ひ血液等を取調たるに矢張り其病毒はエルザン菌に違ひないと云ふことを認めたるを以て、其趣を內務大臣閣下、中央衞生會長、幷に其他の友人等に電報にて知らせたのであります、

偖て「ペスト」病黴菌の形と申しまするのは如何なるものであるかと云へば、丁度蚕の繭の如き形を致して居るものである　其大きさは中等の大きさであつて、運動せざる黴菌であります、それを「アニリン」色素で染めて見ますると、其兩端が濃く染つて眞中は格別染りません、それから又グラム氏の着色法で染めて見ると脱色す北里氏の菌は脱色せずして運動すると云ふ區別がある、只今其處の顯微鏡に「ペスト」菌をかけてあります、右の方にありますのは、「ペスト」に罹りたる者の淋巴腺より製したる標本にして、其菌は皆死んで居りますから危險のことはご

ざいません、左の方の顯微鏡にかけてありますのは御承知もある通り大坂に肺「ペスト」があつた、其肺「ペスト」患者から取つた標本であります、が兩ながら黴菌は着色してあります、尚ほこゝに小さき繪がありますが、是れはエルザン「ペスト」菌と北里氏の「ペスト」菌とを、二つ別けて書いてありますが、(此圖は卷首にありエルザン菌は中央部着色せずし北里菌よりも僅かに大なりとす)

ペスト菌は他の黴菌と違ひまして、實を結ばない所の菌であります、即ち種が出來ません所の菌であります、故に熱に對しても、日光に對しても、除り強くない黴菌であります、併し寒氣に對しては随分強き菌でありまして攝氏の零下三十度位に冷しましても死にません、又ペストの病毒は今申す通りエルザン菌に確定致したのであります、又患者に就て病毒のある所はどうであるかと云ふに、「ペスト」に罹ると多くは腋の下であるとか或は股の所に淋巴腺と申してグリ〳〵あり、其腺が腫脹を來し其腫脹せる淋巴腺にペスト菌あり、或は又内臟にあるあり血液の中にも現われるとあります、然ども血液中にペスト菌ある場合は甚だ少なく、「ペスト」患者の全數の三分の一位のみ血液の中に現出す、又た膽汁尿大便中にも含むとあります、身體の外に於てペスト菌を發見したと云ふのは、只二三の報告あり、即ち「ペスト」患者のあつた床下の土壤之なり、然とも其土中にある菌は毒性甚だ弱しと云ふ其床下の土中にある病毒は人の排泄物か或は動物の排泄物等より來りたるものなるや或は最初床下の土壤に病毒發育してそれより人並に動物の其病毒を受けたものであるか否やと云ふことはまだ解りません、併し數多の經驗に依れば香港に於ても印度に於ても臺灣に於ても神戸大坂に於ても等しく人が「ペスト」に罹る前には必す

鼠が「ペスト」に罹ると云ふことは確實にして爭ふべからざる事實であります、』私が嘗て臺灣に研究に行きたるときに鼠が大變死ぬと云ふことを聞きましたから、其鼠を檢査したいと思ひ之を得んとを人に依賴を致した所が、臺灣に於て「ペスト」の避病院長をして居る澤田惣五郎氏が其鼠を檢査所に持來り呉ましたが氏は土人の將に死せんとする二疋の鼠を携ふるものに行逢ひ、どうか其鼠を私に與へよと云ひしが其土人の言ふに、此鼠は一種の病氣に罹り甚た危險なり、即つ鼠病——斃鼠病に罹つて居るのである、此病氣は容易く人に傳染る物であるから御前に上げることは出來ぬと言ふたそうであります、所が私は醫者だから少しも危險はないから渡して呉れと云ふので、土人より二疋の鼠を貰つた、とて澤田氏が二疋の鼠を新聞紙に包んで私の檢査所に持ち來られたのであります、それより私は鼠を檢査せんとして、新聞紙を解いて見ますると、其鼠に多數の蚤が寄生し、其蚤が突然飛び出さんとせるを以て、是は大變だと考へて、又元の如くに包み置き、二つの器を取寄せ、其一つには石炭酸を盛り一つには水を煮てさめたものを盛りて之に各一頭の鼠を入れたるに蚤は或は浮み、或は器の底に沈みたるを以て其殺菌水にある、蚤三箇を捕え殺菌せる硝子板の間に之を潰して、其物質を二頭の南京鼠に接種て試みました所が、一頭の鼠は三日程經て斃れました、其鼠を解剖せしに其內臟及ひ血液中に夥しく多數のペスト菌あれり、之に依つて見まするど病鼠に寄生せる蚤は、其病鼠の血液を吸ひ、其病鼠が死するに至りて、軆温冷却するに從ひ、皆其軆の離れ飛び出して人若くは他の動物に寄生するを以て蚤は「ペスト」の病毒を人に傳へ得ると云ふ說を私は立てたのであります、矢張り蚤を同じく混

虫に屬する所の蚊或は蠅の如きものも、其病毒を取つて或は直に人に移し、或は飲食物に移し得ると云ふことは疑ひはないだらふと思ひます、

人は如何なる徑路よりペスト病毒に傳染するかと申しますなれば、多數の研究者は皮膚の傷から病毒侵入し、特に足部の外傷が最も傳染多しと申します、是は「ペスト」患者に就て見まするに、股の淋巴腺が一番多く侵される故に足部の外傷から其毒が這入りて股腺が一番多く侵されると云ふのであります、私も矢張り其說に贊成を表す、香港に「ペスト」が流行せしときに、學者が考へるに支那人は多く跣足で行くから、容易に足の外傷を受け、それより病毒が這入ると云ふ說を立てたのでありますが、併し香港のみではありません、臺灣に於て內地の人が「ペスト」に罹るのは、强ち跣足で步行も致しませんのに拘らず、矢張り股の淋巴腺(グリ〱が)一番多く侵されたのであります、又神戸に於ても大坂に於ても、等しく跣足で步きませんに拘らず、矢張り股の淋巴腺が多く侵されるのでありますから、只支那人が跣足であるくから足の傷よりのみ病毒が這入るとばかりは說を附けられないのであります」

又たペスト中の肺炎ペストに於ては、何れより傳染するかと申しますれば、空氣より傳染す、肺炎ペストに罹つて居ります患者の痰を調べて見まするに、こちらの顯微鏡に掛けてあります通り、實に多數のペスト菌がございます、而して肺炎に罹りたる患者が咳嗽をする時に、其痰に混し黴菌を霧の如く空氣中に吹き出すのであります、それ故に患者の居ります室の空氣の中に、霧のやうに黴菌が飛んで居りますから、甚た容易に傳染するのであります、故に醫者看護婦等は、甚た傳染の危險の多きを以て、肺炎ペスト患者に接近する時は、布か或は綿に消毒藥を

浸して之を以て口幷に鼻を覆ひ診察をせねばなりません、又患者に於ても空氣中に痰を略出せざる、所謂「レスピラートル」を應用せざれば、醫者並に看護人に甚だ危險であります、大坂に於ては一名「ペスト」肺炎患者がありて、之に近接致し或は又診察致した醫者、並に檢疫官及び其家族までも肺炎ペストに罹つて十四人の死亡者を出したのであります、夫故に肺炎「ペスト」は甚だ危險であると云ふことは、知られるのであります、

又たペスト病毒の喉の腺に侵入し頸腺腫起するあり或は扁桃腺より病毒侵入するあり、曩に御話致した靑山博士が「ペスト」に罹られましたのは、其罹る一二日前にペストの病躰解剖を行ひ、其時に指に外傷ありて之より病毒侵入せしならん如何となれば手に淋巴管炎を起せるを以てなり、又エルザン氏は「ペスト」病毒の傷より傳染りたる例を揭げたり、動物即ち兎或は天竺鼠等に該病毒を食物に混じ與へ試驗するに等しく「ペスト」に罹る、故に腸よりも傳染すると云ふことは疑ひはないのであります、

又之に就て學者は或は腸より傳染するのは少ない、或は多いと云ふやうな種々な說がありますが、其說は今日は省いて置きます

流行病學上よりペストの流行を見ますると、其流行せる土地は香港に於ても臺灣に於ても其他の土地に於ても、支那人町の最も不潔な場所が甚しく流行し、下水の排除惡く、又た飮料水も不良にして、家屋は甚だ暗く、空氣の流通も甚だ惡き所が一番甚だしく流行するのであります、孟買に於ても亦然り孟買に於て甚しくペストの流行せる場所は最も不潔にして、下水も不完全且つ飮料水も不良なる場所なれり、之に反して歐米人の住居せる淸潔の場所にして、下水も完全にして飮料水も善良なる場所に

於ては、其流行甚しからず、香港に於ては、明治二十七年に三百人の英吉利の兵隊が彼の支那人町の最も不潔な所に清潔法を施行したのでありますが、其三百名の中十名「ペスト」に罹り二名死亡しました今回又神戸に於けるも「ペスト」の甚しく流行したる場所は神戸市中の最も不潔なる葺合村なれり、今迄申述べた如く、「ペスト」は其毒が土地に一度這入ますと、病毒は隨分固着して永く跡を絶たず、而して一時患者が出ないやうになつても安心することは出來ませんのは、人が「ペスト」に罹る而已ならず鼠の種族が最も容易に之れに罹るのでありまするから、其鼠が病毒を有して居ります故に、何時又人に傳へるか知れません、又鼠に於ても或は急性の「ペスト」に罹ることもあり　或は漫性の「ペスト」に罹ることもあつて永く鼠の間に病毒を保存して居ることが出來るのであります、」

ペストの流行に就て最も注意を致すべきは、其病氣は他の傳染病の如く時期の流行盛衰に關係せずして暫時全く消滅せる如きも、全く消滅に歸せずして不安心なれば一時患者を發生せざるも復び患者を發生するありて、一度流行地となりたる場所は容易に安心が出來ません、孟買に於きましては、冬甚だしく流行し、香港に於ても夏と春に流行せり、即ち香港に於ては明治二十七年五月より九月まで大流行あり二十九年に於ては二月より五月まで流行して夏に至りて頓に消滅したのでありますが昨年は又夏に於て流行せり、臺灣に於ても冬に流行することあり夏に流行することあり、或は全く暫時の間患者の發生せざる時期あれり、斯の如く流行病學上より觀察致しますれば、今回神戸市大阪市に於て「ペスト」が一月以來二月或は三月の末迄は患者を發生せざるも決して安心することは出來ないと私は他の會に於

て度々申したことがありましたが、不幸にして其豫言の如く矢張り四月或は三月の末より又多數の「ペスト」患者發生し、已に今日に至りては二十名に近い「ペスト」患者を發生せり、又某旅人大阪に一夜宿泊りまして靜岡に來らんとせしに、掛川に於てペスト病に罹り斃れたのであります、故に「ペスト」は一時發生せざるも安心して豫防を怠つてはなりません又大坂に於ても一月以來三月頃までに「ペスト」患者は出ませんでありましたが、其間に屢々鼠がペストに罹つて居るのでありますから、猶更安心は出來ませぬ、流行地は勿論其他の土地に於ても、鼠が斃れて其鼠に「ペスト」病毒がありましたならば、決して豫防を怠つてはなりませんのであります、

ペスト病の流行と云ふものは、其土地の寒暖或は濕氣などには著しき關係を持たぬやうであります、故に或は夏に流行することがあり冬に流行することがあり、或は雨量の多い時に流行することあり、或は乾いた時期に流行することがあります、

ペスト病毒に感染して、發病するまでの時間は則ち醫者が潛伏期と申しますが、潛伏期は三日乃至五日位である、十日以上に越ゆることは甚だ稀なりとす

ペストの豫防第一に其流行地より來れる人、並に物品に好く注意を致さなければなりません、夫故船舶の撿疫などは最も必要であります、如何となれば船で病毒を持つて來ると隨分多きを以てなり、併し陸地に於ける汽車の撿疫は隨分繁雜にして、充分僅の間に旅客を皆診斷することは中々難いのでありますから、汽車を撿疫は之を行はずして、却て停車場に醫者を置き、疑はしき場合には早速手當をする位に止めなければなりません

第二には成たけ早く初發の患者を見出すと云ふこと

初發の患者を見出したならば他に傳染しないやうに患者を隔離して仕舞ふと云ふのが必要の手段であります、若し一人でも患者が有つたならば、其患者のみならず患者に接近した者、若しくは親族の者も、一定時間だけに他に移しく、若しや傳染して居りはしないかと調べて見ることが必要であります、而して患者ありたる家は十分消毒して一定の時間空屋となし一定時の後再び住まはせることにしなければなりません其時日は二週間乃至三週間を經へきものなりとす

第三には先刻よりお話する通り、家鼠をなるたけ驅除しなければなりませんのみならず、其事に就ては嘗て本會に於て山根醫學士も御話をされ、又其機械等も御目に掛けられたやうでありまするが、機械なり其他の方法なりに依て、成べく鼠を捕り盡さねばなりませんのは鼠が病毒を擴けるのでありますから是非とも驅除しなければならない、又た猫に捕らせても宜しいと考えます、

第四には土地の衛生上の改良であります、土地に於ては上水を引き又下水工事を起して、成べく土地を清潔にしなければなりません、而して尙他の不潔物も充分排除致して、塵や芥の汚物を人家の近傍に置かないやうに致さなければなりません、斯く致して始めて病毒を全く撲滅することが出來、清潔の土地には例の「ペスト」病毒が這入つても發育することが出來ません、不潔物が有れば有る程發育するのであります、故に土地を清潔にして不潔物を排除すると云ふことが必要であります

第五には「ペスト」患者に近づく者は、先に申した通り醫者看護人等であつても十分消毒法を行はなければなりませんことは勿論でありますが、肺炎「ペスト」患者であれば、醫者看護人は茲に御話申した

「レスピラートル」を以て呼吸し、患者にも之を用ゐさせて、其傳染を防がなければなりません

第六には若し其土地にペスト流行があり、又其流行が甚しくなりまするど、其土地の人に豫防接種を行ふべきであります、是はハフキンと云ふ人が印度で行なつたのであります、其方法は「ペスト」の病毒を發育させて一定の時間を措いて低い温度で其病毒を殺して、石炭酸を加たる液を健康の人に注射するのであります、さう致しまするど縱令「ペスト」患者に接しても、傳染の危險甚た少なし、縱令傳染しても其經過が餘程輕いのであります、ハフキン氏は印度に於て、三百有餘名の監獄の囚人に其法の行ひ試驗を致したいのでありまするが、其半數に注射し、半數には注射を行はず、而して其土地は「ペスト」流行地でありましたが、注射した者は百五十名の中二名罹つたが其の二名は全快したのであります又注射しない所の百五十名の者は十二名罹つて六名斃れたと云ふ報告があります、それで昨年より今年一月には御承知の通り大坂に肺炎「ペスト」患者あり、之に近接致す者は多くは傳染致し死亡するのでありますから、其際に醫者に於ても恐怖心を懐き、撿疫をする醫者も大變恐れました、故に大坂に於て大層心配して大學にドウか救ふ方法はないかと云ふことで問ふて參りましたから、豫て大學にては其豫防注射を助教授の横手君が研究して居りましたから、其豫防液を携へて大坂に參り、醫者幷に看護人等多數の人に注射致したのである、横手君自身に於ても注射は決して害はないことを證明した上に、其方法を行つたのであります、近頃又大坂に續々「ペスト」患者を發生することになりましたから、其方法を廣く行ふが宜しいと云ふ議も出まして、多分行はれることであらうと考へます

終りに望んで尚ほ豫防のことに就て御話致しますれば、貴婦人の中には蠶兒を御飼になつた御方もありませうと思ひまするが、蠶兒を養ひまするには、第一に其蠶兒の種を撰び、それより虫の發生致してからは其虫は桑を以て養ふのであります、其桑にしても餘程撰ばなければならん、桑の葉に就ての撰擇を致し濡たる水氣の多いやうなものは與へないやうに致すと云ふことを聞いて居ります、加之ならず蠶兒を飼ひます處の部屋、即ち室の温度にも又寒氣にも、空氣の流通に餘程注意を致して、他に一疋でも其中に傳染病に罹りたる蠶兒がありますれば、其病に罹つた蠶を取除けませんと他の健康のものに傳染する恐れがありますから、之を隔離し他のものも難を免れることが出來ます、丁度是は人の傳染病と同じものである、又其不潔物の掃除はどうであるかと申しますると、毎日々々排泄物等を棄てゝしまつて皆新らしくしてやる、斯く注意を加へて蠶兒を養へば健全なる立派な繭も出來、好い絹も取れるのであります、人に於ても同じことで、不潔物等が住家の周圍にあり或は家内が不潔でありますれば矢張り傳染病の發生も甚だしき道理でありますから、蠶兒に就て人が注意する如く、人に就ても又注意を致して、不潔物等を取り除けて仕舞ふやうにしなければなりません、若し不幸にして患者が出來た時は成べく他の健康の人に病氣の害を及ぼさないやうにしなければならんと考へます、

甚だ長くなりまして御退屈でありましたらうと思ひます、私の話は是で止めます

寄書

肺病者養生法

醫學士　竹中成憲君

外科的療法

一肺病とは肺臓腐れ破壊して蜂の巣の如くなり穴の明くものなり現今外科醫術の進歩と共に肺病の爲に病者の胸を穿ち此破損したる場所を小刀及烙白金(やきがね)を以て取り去るの術あり偶之は獨乙國ドクトル、ゾンチンブルヒ氏之を行へるとあり然れども患者多くは病勢増進し末期に至らざれば此手術を受るの決断を爲さず爲めに之を行ふこと稀なり恩師ドクトル、ズクリバ氏(醫科大學教師)は患者の諾ある上は何時にても此手術を行ふべしと余に語られたるとあり

一肺注入療法と稱し長き管針を以て藥品を肺の中へ注入するの法あり之に用ゆる藥品は「クレオソート」「アリストール」「ヨードホルム」「ナフトール」「ベータ、ナフトール」、昇汞、石炭酸等なり本法は大に効あるべきを信す然れども其實驗日尚淺きを以て未だ廣く世に之を用ゆるに到らず

賣藥

一肺病に關する賣藥は各國共其數極めて多し多くは秘傳抔と稱すれども其効驗に至ては恐くは學術上殆んど研究すべき價値なきものとす

溫泉等へ行く事

肺病の起りし後溫泉等へ行くは殆んど効なし肺病起らざる前に溫泉へ行けば夫れが爲めに軀幹强壯になりて肺病を未發に防ぐ事あるべし既に發せし後なれば富有の人は行くも宜しけれども貧者は無理をして

行くに及ばず蓋し奏効に比し費用大なればなり若し行くならば夏は山冬は海と心得べし

温泉を化學的成分に據り左の如く區別す

(甲) 鹽類泉

(乙) 炭酸泉

(丙) 硫黄泉

要するに入浴には鹽類泉を良とす炭酸泉は便秘する人の内服に宜しく硫黄泉は皮膚病のもの入浴に適し(硫黄泉の蒸氣は肢の病氣に効ありとベルツ氏はいふ)

(甲)は又其成分により効用を異にす例之「マグチシア」を含有するものは下劑となり鐵を含むものは貧血者に良きが如し

(乙)は胃病のもの、内服に良し

(注意)世人の注意を促さゞるべからざる事あり

世人は多く温泉に入浴するのみを以て効ありと信ず然れども入浴のみにて効あるは(丙)の皮膚病に於ける(甲)(乙)の「レウマチス」に於ける位のものにして他は皆藥品と同じく内服するにあらざれば効なし何となれば假りに温泉中に鐵ありとするも此鐵は人の皮膚を通して體内に入るものにあらず鐵は貧血に對する藥なれども之を呑まざれば効なし

故に温泉の健康に良しきは他に理由のあるあつて普通醫俗の其化學的成分により効用を左右し賣藥的効能を書き立つるは早言に失して愚なり

他の理由とは左の如し

第一　世塵を避くること

人此世に立つや優勝劣敗の戰爭場裡にあり故に力役者を除くの外は皆腦神經を過勞し事務多忙なるものは醫學の所謂神經衰弱症に陥りあるなり

今己れの家を去りて他所に行き平生の業務を廢する

ときは大に此衰弱を恢復するなり家を思はざるにもあらざるも人間は愚否正直なるものにして諺に言ふ如く「見ざるものは日々に疎し」思ふ中にも忘れ居るなり是健康を恢復するに最必要なる條件なり西洋人は能く此點に注意し一年に一回は必らず旅程に上る温泉場は即ち此俗務を忘るゝの地なり

第二　空氣善良なる事

人家稠密なる所の空氣は多量の「バクテリア」と稱する多くは病源となる所の虫の類を含有す温泉場の如き所又は海上にありては其空氣中に此「バクテリヤ」なるもの明に僅少なり故に此點より言へば熱海の如き多數の浴客ある所よりも田舎の小温泉を良とす又山間の幽所は「オゾーン」と稱する强力なる酸素を含む等總て市街の空氣に比し善良なる點多し

古人も海上空氣の清潔なるを知りしなり即ち秋田の名產なる能代の沖塗と稱するものは塵埃なき場所にあらざれば之れを製造する能はず爲めに特に海上遙に出てゝ之を製せりと云ふ故に沖塗の名あり

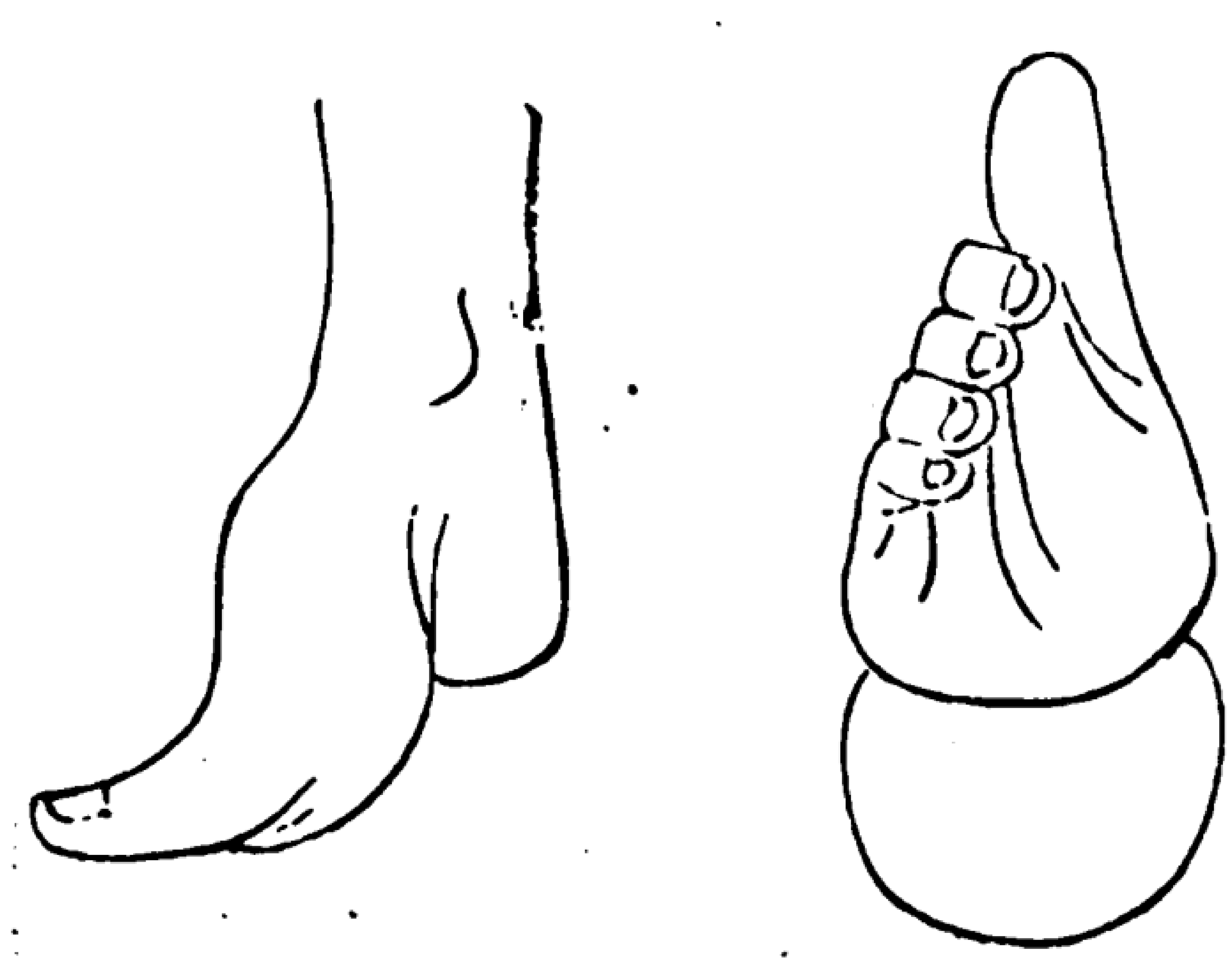
上記の此「バクテリヤ」中に例の肺病の虫もあり市街の空氣は實際の塵埃（ごみ）も亦多量に含みあり

臺灣婦人纒足の說明（前號の續）

三　弊害

女脚始めて緊束るの間は疼痛異常にして殆んと膝を減し寢を廢し寒夜衾を脫して悶熱を去り或は皮肉腐爛して寸步し難きもの敢て珍しとせす且つ甚しきに至つては腐爛の餘遂に指頭を失ふ者ありその一旦纒足せる後は苟も之を緩ふするを得す設令成年の後と雖一日之を緩ふせは再び舊鞋を履む能はすと云ふ而して若し少しく多く步行せんには忽ち蹠面の前後兩部に於て腫張疼痛に堪へす現に學校に通へる女子中多く之あるを見る又蹠面に屈折せる指頭の間或

は足背の前部に於て往々腫張を患ふる者ありて早きは十數日遲きは數週間床頭に煩悶窮苦し膿血淸排して腫患癒ゆるにあらされは立て歩行するを得す慘劇の狀誰か目擊心傷せさらんや慈愛の心之を緩ふせんと欲するも有レ屋以容レ人豈無レ屋以容レ足乎（蓋し纒足小なれは容易に婚嫁するを得身を容るゝの家ある可きも纒足大にして婚嫁するを得されは其足をも容るるに家なしさなり なる風潮の諺は能く此の無情に堪へしむるのみならす纒足の大にして婚嫁するに家なきは父母たるものゝ最も怕るゝ所にして此の語は不幸にも殘忍の情を勵ます或は夫妻之か爲めに反目和をするあり風潮の趨く所習て之を怪ます益々其陋習を極むるに至る而して一たひ纒足の時期に達すれは容貌の妍媸に論なく皆な其足を纒小せし榮譽と爲し倘し足小ならされは粗俗不文を以て他人の鄙笑を発れさるなり諺に云ふ好頭陰レ面好脚陰レ身と之れ亦婦人の其足を纒小して以て美を裝はんと務むる所以なり此の間達人志士の深く其弊を察し能く其陋を覺ると雖多年の習風之に抗する能はす遂に俗に從はさるを得さるに至る彼の貧賤の家亦少しく容姿ある者は勉めて其足を纒小し富貴の家に嫁さんことを希圖せさるはなし設令姿色劣る者と雖倘ほ喜んて其足を纒小し以て俗に媚んとす唯た生平採薪炊爨等の勞に從ひ又は田野に耕耘するを以て自ら緊束を恣まゝにするを得す之かため貴賤貧富に依て纒足に大小の別あるのみ彼の賣身的の下婢に至つては洗足を以て例とすれとも纒足のため已に變形せる者は跛癡して步行に堪へす玆を以て人多く之れを爲すに忍ひさるなり其の一旦纒足して再ひ解除し難き所以のもの想ふ可きな



り夫れ婦人の世に處する其の務め輕きにあらす然れともその足を纏小するか爲めに天賦の形質を戕ひ身躰虛弱にして延て子女に累し父母の遺躰を傷けて事長の孝を缺き庭幃を跬歩するの外家を理し業を執ること能はす直接間接に一家の經濟に波響する所尠しとせす況んや少時學校に通ひて敎育を受け一旦嫁して內臂の助と爲り或は社交に立ちて婦人の功を收め子女を育して家庭の任を完ふするか如きは都て纏足の爲めに掣肘する所と爲る實に纏足は文明の阻礙にして國家富強の障碍たるもの其害の及ふ所や大なり且つ吾人か衛生上より觀察する所を記せんに抑も幼年時代は身體の發育旺盛にして日に月に體量を增し能く肥滿る者なるに齡漸く四五歲に達し運動稍々活潑なるの時に於て一旦纏足の法を行ふ時は爲めに疼痛に堪へ難く食慾を減し身躰羸瘦て顏貌蒼白一見虛弱質の小兒の如く動作不活潑にして沈鬱性と爲

り甚たしきは下脚の痲痺を來たすものあり漸次慣習するに至り疼痛を減すと雖壓迫られたる各趾間は互に密着て皮脂の分泌物は腐敗分解し一種云ふ可らさる惡臭を放ち極めて鄭重に每日幾回の洗滌を行ふにあらされは軟弱なる皮膚は容易に破傷れ潰瘍又は糜爛を生し疼痛忍ふ能はさるに至る然れとも彼等は白凡又は黃丹と稱する藥石を用ひて纔かに疼痛を和らけ腐爛を止むるに過きすして洗滌を行ふこと多からす或は壓迫のため血液の循環停止て脫疽と爲り趾先を脫落するものあり而して皮膚の損傷は彼の恐る可き傳染病毒をして進入を容易ならしめ百斯篤、丹毒又は破傷風の如き生命に關する危險なき



にあらす本島婦人の百斯篤に罹ること多きは或は此等に基因するものにはあらさる乎且つ纏足の爲め殆んと不具の狀態に陷り纔かに人の肩に倚り或は杖の助を得て步行するものゝ如きは下脚蒼白にして彼の皮下に脂肪分を富有し肥滿し易き婦人の脚も之か爲めに殆んと骨と皮とより成れるの觀あり總て纏足女子は運動自由ならさるため筋肉の發育を妨け血液の循環食物の消化共に不活潑にして全身の新陳代謝作用を亢進せしむる能はさる等衛生上に害を與へ身躰を累弱せしむること少からさるなり





衛生叢談

皮膚病の話（第三）

在大學　T. S.

前號にはほくろの話を載せしが本號には之と似たる者にて皮膚に生ずるしみの二三に付て述ぶべし

赤痣

赤痣は赤母斑とも云ひ鮮紅色或は暗紅色の痣にて間々軀幹手足にも生ずれとも其最も多く存するは頭顏頸等なり、此痣は多くは生れつきにて其大さは極小なる者にては凡そ針頭大なれども大なる者にては五十錢銀貨大の者もあれど其甚しきに至りては顏面の半以上も赤痣となることあり、此痣の表面は滑にて周圍の皮膚と異りなきことも有れど時と

しては凹凸を生ずることもあり
此痣は皮膚の眞皮膚中にある血管が增加して如此赤き色を呈する者にて終始同じ大さにて止まる者もあれど亦益々大となる者もあり、又不意に消失することも有り、
此痣は極少き者なれば別に目にも立たず又少し位大なる者にても別に大となる樣子もなく又其爲めに容姿を上下することなければ其儘になし置くも可なれとも少しにても肥大し始めたる曉には早速醫師の許に馳せて治療を乞ふべきなり、現に去る年大學の「スクリッパ」敎師が手術されし令孃の如きは好例なれば一寸御話申すべし、
此令孃は生來右の下眼瞼に極く小さき赤痣ありしが三四歲の頃より追々肥大し始め七歲の頃には丁度二錢銅貨程の大さとなりし由、されど其頃は我國の醫術も今日の如く普及せず兩親も亦大切の娘に手術等施して若しもの事ありては大變なりとて其儘放置せしに痣は益々肥大し患者が大學に來りし頃には殆んど大人の手掌程の大さとなりさすがの芳顏も太く害せられ年は取る嫁には行けず患者は最早生涯獨身にて過さんとまで決心せしとの事、兩親も見るも見兼て何とかして少しなりとも痣の小くなる工夫もがなとて遙々「スクリッパ」敎師の診察を請ひ來れるにてありき、幸運にも此令孃は敎師の靈妙なる手術により僅に二號程の創傷を殘して痣は取去られ退院したるが過る日記者が日本橋邊にて此令孃を見かけし折は昔日とはうつて變りし姿となり而も其夫ならん人と最と睦く車を驅りたまひき、勿論如此は外科學の進步せる今日と雖も異例と見爲すへき者なれば諸姉中不幸にも赤痣を有せらるゝ方あれば決して治療を怠り給ひそ
治療は痣小なれば發烟硝酸或は一－二%の昇汞「コ

「ロジウム」の如きにて腐蝕せしむるもよし（決して素人療治を施し給ふな醫師に請はるべし）、又近來は電氣を用ゆること流行す、

赤痣の大なるものは外科醫の手術を請はるゝより外はなし、

そばかす

そばかす（雀斑）もほくろと同じく生れつきの者なれども其現はれ來るは二三歳より六七歳の頃よりなり、其出來る場所は第一顔にして次に手にて其他亦軀幹にも出來ることあり、其色は極淡き者は黄色を帯びたる褐色なれども極濃き者にありては恰もほくろの如く黒きことあり、大さは大抵針頭大なれども稀れには之より少しく大なる者もあり、

そばかすは其色薄く且つ少しなれば別に目にも立たぬ者故別に治療を施さるゝ必要なし、況して洋服等召さるゝ諸姉は面紗を用ひ給へば之を隱蔽すること容易きは既に御承知のことゝ信ず、されどそばかすも甚だしき者となれば間々肉腫、癌腫の如き悪性の腫瘍を發生することあれば斯ゝる場合には決して躊躇することなく醫の治療を請はるべし、

治療は十%昇汞アルコールを綿に浸し之れにて局部に罨法を施すこと四時間斗なれば水泡を生ずべし、此上に亞鉛花澱粉にても散布し置けは漸次そばかすある皮膚は剝離すべし、或は亦此法の代りに結晶石炭酸にて一づゝ腐蝕するも可也、されど此等の療法は決して素人には出來ぬこと故左様御承知ありたし、

夏目斑

之も針頭大のしみにて其境界は不規則にぎざ〳〵をなし其色もそばかすに似て黄色或は暗褐色をなす、出來る場所は大低顔手足等の如き重に衣服より被はれさる場所也、

此夏目斑の特性は夏になれば判然と現はれ冬になれば殆んど消滅すること也、此事實と云ひ其出來る場所と云ひ何か日光と密接なる關係あるらしく思はるれど如何なる者にや、

此志みは老年になれば全く消滅し又西洋にては毛の赤き女性に最も多く出來ると云ふ、

治療はそばかすと大差なし、其他「ヘブラ」氏の夏目斑膏と云ふ者あり白降汞、次硝酸蒼鉛、各五、〇ヲセリン二〇、〇の合劑なり（醫師より貰ひ受けらるゝべし）、用法は日々數回擦込み兩三日にして一旦休して又後擦り込み給ふべし、（以下次號）

海水浴及び海氣浴の話

最早本月も半過となり追々暑中休暇も近きたれば會員諸君中には此時期を利用して暑を海邊に避けらる方も多かるべければ玆に海水浴幷に海氣浴の事に就て少しく述ぶる所あらんとす、

海岸に轉地することの利益は獨り海水に浴すること即ち海水浴を爲して身躰を强壯ならしむるのみならずして海岸の善良なる空氣中に生活して爽氣を快復せしむるにある也、斯の如く海岸の空氣中に生活するを海氣浴と云ひ其利益は時としては海水浴に優ることあり、



今兩者の衛生上の利害を擧くれば海水は其溫度の低き事と波浪の爲めに絶へず動搖しあると、海水中には食鹽其他の鹽類を含み居るが故に之等の刺戟とにより次の如き利益あり

第一皮膚を刺戟し其中に存する神經を激勵し之によりて神經の中樞即ち腦髓を興奮す

第二皮膚は度々の刺戟により異寒に慣れ從て强壯となり寒暖の劇變に遭ふも容易に寒冐に罹ること少し

第三躰の諸筋肉運動するが故に其練習ともなり同時に新陳代謝を盛んならしむ

されば貧血の人、皮膚弱き人、僂麻質斯の人、腺病質の人等は海水浴をなせば大に其健康を復することを得べしされど生殖器病の有る人、肺病の人、心臟、血管に病ある人には害あるも利なし

海水浴をなす度數並に時間等は人々の躰質により亦其時の模樣にもよることなれば玆に之を明言すること能はさるとも先づ大凡は一日一回位となし時間も三四分より十分位の處にて切上るを可とす又雨天の日寒き日等は海水に浴せさる方可也尤も極く淺き處にて足の邊迄を水中に入れて徒渉するは此限りにあらず、又妊娠せる人は海水に浴せぬ方可也、

次に海氣浴の利益を擧ぐれば海岸の空氣殊に島嶼の空氣は温度の變化至て徐々にして亦酸素一種にて人躰に有益なる阿巽と云へる者を含み又海氣は水蒸氣を含むこと多きが故に常に滋潤し其他海氣は又清潔にして有害の者を混ずること少く殊に人躰に有害なる黴菌を含むことなり又常に動搖して風をなすが故に夏の熱き時にありても大に涼しく皮膚の機能盛となり從て身躰の新陳代謝も亦旺盛し躰中殊に鼻腔氣管等に付着せる黴菌は徐々に取去られ亦此部分の粘膜に在し色々の病も塵埃其他の有害物の來りて之を刺戟することなきが故に速に全快す故に鼻腔咽頭氣管の病氣肺の病子供の百日咳、腸胃の病氣、神經系の病、皮膚の病貧血僂麻質斯、腺病の人等には殊に其効著し中には久しく服藥しても治癒せさりし病も海氣浴の爲めに全治せし例少からず、此外都會に住して忙しき職業をとりし人が一切去て

海邊に行き山水の明媚なるを眺め清涼の空氣に浴せば其心地の善さたとへるに者なきは諸君の已に經驗し給ふ處なりされば避暑に趣かれし方々は單に室中に安臥せらるゝことなく朝夕屋外を逍遙して海氣に浴し給へば僅少の時日にて大に健康の躰となり給ふこと疑ひなし、尙玆に注意し置きたきは海氣に浴し心身の壯快なると共に食慾も大に進むべければ此際注意して過度の飮食を貪らざる樣不消化の物品を味はざる樣注意ありたきことなり、次に心得へ置くべきは轉地すべき土地の撰擇方流行病の有る土地不潔なる土地等の不適當なるは申す迄もなけれとも假令海濱とても風通しの悪しき土地等は海水海氣兩浴共に適せざれば成るべく廣々とした海氣の流通すべき土地にて海岸は游泳に危險なく而も充分逍遙の出來得る土地たるべし其他交通の便飮用水の善悪食物供給の如何、土地の風俗、適當なる醫師の有無、旅舍の樣子等にも充分注意ありたき者也

海水浴の事に就ては本誌五十號に三浦博士の講演及第前きの本會雜誌中に精しく記載しおれば之れをも參照し給ふべし



看護法

普通看護法に就て

T. S.

克く世間で「醫者よりも看護」と云ふとを申しますが誠に名言と存じます、勿論かく申しましたからとて病人は醫師に見せずとも宜ろしい看護さへ行屆けばそれで屹度治ると申のでは御座いません、それは病人が有れば直ぐ醫者の診察を乞ふて此病氣は何で有ると云ふ事を診断して貰い適當の療治を施し手後れ

とならない様に心掛なければならぬので有りますが醫者も多忙の身故なか〳〵そう病人に付切りと申す譯にはまいりません、精々一日に一度とか二度とか見舞まして其他は家族の方なり付添の方なりに看護を願ふより他はありませんのでありますから此看護をなさる方々の看護術に長ずと否とは病氣の經過に大なる關係を有する者であります、看護の法が行屆き居れば醫者も誠に安心して藥をもるなり手術を施すなり致す事が出來ます又病氣の有樣が時々變動致しましても付添の方が看護法を御承知で有ればそれ〳〵臨機應變の處置を致しまして醫者の來る迄病人を危險の狀態に陷らざる樣致す事が出來ます、つまり如此具合でありますから看護法を心得た方に看護をされた病人は治る事も早く亦危險に陷る事も少いのであります、でありますから家族の方々殊に御婦人の方々亦これから一家の主婦に御成りに成る方々は六ヶ敷ことは兎も角看護法の一通は是非御承知に成りたき事と存じます、無論此頃は諸所に看護婦會等と申す者が出來まして慈愛に富める姉妹たちが其身を犧牲に供して病に惱める方々の苦痛を輕くなさろうと云ふのでありますが之れは誠に善き目論見で御座います、之等の姉妹は必らず看護學を專修なさッた事で御座いますから箇樣の方を御賴みになれば痒ゆき處までも手が屆きましてそれは之に越した事は御座いませぬが如此慈愛なる姉妹も左程澤山何處にでも御在でと云ふではなし又左程重くもなき病人に一々看護婦を賴むと云ふ事も出來ず或は又家の狀態によりては他人を賴みがたき事情も有る事ゆへ旁々看護法の御心掛が必要と存じます、

以上は一家内に病人の有りし時の事で御座いますが我大日本帝國も日々强大と相成り從つて外國と鋒を交ふる樣な事が增加いたします、現に此頃も北淸地

方で戰爭が始まり我が國からも數大隊の兵を派遣したと云ふ樣な有樣でたしか赤十字社からも新造の病院船を既に彼の地に急航せしめ多分今頃は先方へ着いたし其任務は服して居る事と存じます、如斯事になると御婦人方に於きましても決して馬耳東風と御すましになる譯にはまいりませぬ、それ〴〵相應の仕事を以て國家に御盡しにならなければなりません、思ひ出しましたが丁度あの日清戰爭の時で御座いましたが恐れ多くも上は雲の上の方々から御率先遊ばして赤十字社に御集まりに成り看護法の御研究を遊ばされいみじくも御手づから國の爲めに負傷せし丈夫の看護を遊ばされたとの事でありますが此度も若し不幸にして北清事件が急に靜穩に復さぬと云ふ樣な事で有りますとまた〴〵前年同樣諸姉は奮て國家の爲に負傷兵士看護の任に御當りにならなければなりませぬ、

以上申上た樣な次第で有りますから小なれば一家の爲め大なれば國家の爲め是非共看護法の御研究を願はなければなりません

扨て永々と前置を申上まして定めて御退屈と存じますが之れより本論に入りまして看護法の御話を致します、併し茲で一寸御斷り申て置かなければなりませぬのは此處で御話し申します看護法と云ふは決して當時醫科大學の高等看護婦諸姉が御學びになる看護學とか或は其他の場所で專門の看護婦諸姉が御研究になる處の看護學とか申す樣な高尙な者では御座いません、只ほんのざッと病人看護の致方を御話し申すのであります、從て解剖とか、生理とか、衞生學とか、黴菌學とか申す樣な六つヶ敷學科には立ち至らないのでありますから殊更に看護學の深奧を極め度き方は色々の參考書もあるとで御座いますから之に就て御調べを願います、

看護法を先づ二つに大別致しまして内科看護法外科看護法と致そうと存じます、併し外科患者の看護を致しまするにも或は又内科のを致しまするにも是非知らねばならぬ事柄がたんと御座いますから之を總論と致しまして先づ第一に御話し致そふと思ひます、

看護總論

看護をなさるには憲法とも見做すべき大切の箇條が六ヶ條御座います、少しくど〳〵しくなりますが是非之れ丈は御承知なさらなければならぬ事で御座いますから一寸一通り申上て置きます、

第一　精神潔白にして親實なる事

之れは最早申す迄もなく看護法其者が已に慈善事業の最も大なる者の一でありますから之を實施なさる方の精神が潔白玉の如くにして菩薩の如き慈悲心を御持ちで無ければとても充分なる看護の出來る筈はありません、實に善良なる看護の最大要素は此精神潔白慈愛に富む事で御座います、善良なる看護の患者に及ぼす影響は只に肉體の疾病ばかりでなく精神上の疾病迄も治す樣になります、丁度良い塲所でありますから御話いたしますが、先年日清戰爭の時の事であります、澤山の病兵が澁谷の赤十字社病院で治療を受けて居りました、御存じの通り兵士と申す者は壯年の者のみ揃ひ居る事にて其上戰爭に參つた後で血腥き事に馴て居りますから氣が誠に荒く成りて居りますので病氣の方がそろ〳〵治つて參りますと段々我儘が出て參ります、只我が儘のみなればまだしもなれど中には隨分亂暴な事を致します者もありまして實に堪忍の緒も切れそふな塲合も度々有りたそふであります、併し御承知の通り同院の看護婦諸姉は高等の教育を受けられた方々で其上慈愛に富まれた方々斗りで有りますから虫を耐へてやさし

く面倒を見て御遣りなされたそうで有ります、實に感化と云ふものは恐しきものでありまして一日經ち二日經ちいたします間に荒くれ男等も遂に諸姉の徳に感化せられまして只に亂暴な行爲を止ましたばかりではなく誠に優しき心の人々となりまして心の底より諸姉を慕ひ中には今日までも尚ほ時々手紙を寄せて當時の鴻恩を謝するものも有るそふで御座ります、

これ計りでは御座いません、丁度同し頃赤十字社にて諸姉より看護を受けました支那の負傷捕虜がありましたが之れも同じ様に諸姉の慈愛に馴染みまして日清媾和談判整ふて愈々歸國と云ふ日に成りますと男泣きに泣きまして恰も慈母の手元を離れる様な有様であつたそふで御座ります、之れはまた聞の話でありますが左もあるべきことと思はれます、

第二　規則正しき事

何事でも不規則では困りますが別して看護の事は規則正しきと云ふ事が必要であります、藥を呑ませまするにも脈を取りますのも或は體温を度りますのも或は病人に食物を與へますのも何もかも皆醫者が定めました通りチヤンと一定の時間になさらなければいけません、若しそふ爲さいませんで諸事不規則でありますと折角醫者が色々と良い治療を施しましても少しも其功蹟が現はれないのであります、それから又不規則に整へましたる温度表等は屡々醫者をして病氣の經過を誤解さする事も御座いますから克く御注意を願います、

第三　嚴格なる事

看護をなさるには前申上げました通り親實で無ければなりませんがさりとて決して情實に馴染む様なる事が有つては成りません、慈愛なる心と同時に嚴格でなければ成りません、之れはつい近頃の話で有り

ますが私しの知る邊の者に二人前後して窒扶斯患者が出來ました、而かも二人とも揃も揃ひて重症で御座いまして一時は醫者も匙を投げると云ふ次第でありましたが幸に諸國手の非常な御盡力で二人とも追々快方に向ひてまいりました、御承知でも有りませふがチフスの恢復期は誠に大切で御座いまして少し仕損じますと直ぐ再發いたします、そこで此二人の病人の中一方の方の令閨は看護法の心得ある方でありましたから醫師の命令を嚴守いたしまして少も規則外の事は被成りません、チフスの恢復期には大層御腹が減る者でありますから、患者は色々と食物を請求いたします、近親の身でありますと氣の毒で見て居られるものでは御座いません、併し此令閨は少しも規則外の食物等は御與へになりませんでした、又患者は無聊に苦みますから色々と話を仕かけます、併し此令閨は餘計な話などは少しもなさいませんでした、其他萬事之に順して嚴格に看護を被成ましたから患者の肥立も大層早く間もなく轉地療養を許せる樣になりました、轉地中も定めて前同樣でありました事と見えまして一月程後には患者は以前にもまさる健康なる人となりて歸京被致ました、又一方の方の令閨は誠に教育の有る御方で且つやさしき方でありましたが恨らくは看護法の素養がありませんでしたから其夫なる患者が少しく快方に趣き大層退屈を訴へますので惡き事とは知りながら情に忍びず十五分間斗り雜誌を御讀ませに成つたそふであります、すると其晩から急に熱が上りまして今度は以前にも勝る重體と成りました、幸にも國手等の非常の御盡力で九死に一生を得られましたが箇樣なる譯でありますから自然と治りも遲く其後二月餘りは病床を離れる事が出來なかッたそふで御座います、そこで後の方の令閨も大に悟を開かれまして是

非看護法を研究したいと申されました、

第四　謙遜なる事

之れは申す迄もありませんが看護をなさる方は凡て謙遜で無ければなりません、殊に目下の者等を看護なさる時等は餘程氣を御付けに成りませんと患者が畏懼の心を起し容體も十分申しません、欲しひ者も請求いたしません、從て患者をして多くの苦痛を忍ばせなければならぬ樣になります、又箇樣な事は本會の諸姉には萬々無き事を保證いたしますが若し看護をなさる方に謙遜の御心が御座いませんとつい〳〵看護法の巧なるに乘じ餘計な事を致す樣に立至るのであります、斯なると只に醫者の迷惑するのみならず看護が反て病人の爲めに毒になると云ふ次第でありますから若し會外の方で箇樣な方がありましたら充分御忠告を願います、

第五　身体健康なる事

身體の健康なる事は看護を被爲方には殊に必要であります、看護と云ふ者はなかなか樂な者ではありません、僅の間なれば兎も角長時日病人を看護いたしますとなか〳〵己れの身體も疲勞する者であります、殊に傳染病等の看護を被成方は餘程身體が健康でありませんと傳染する恐れがあります、それでありますから平素から克々氣を付けて身體を健康にし萬一に御備へにならなければなりません、

第六　看護法に熟達する事

看護法に熟達被成にはつまりこれから御話いたします事を克く御覺へに相成れば宜ろしいので有りますから何卒これから毎號續て御話いたします處の看護法の御話を御熟讀被下樣に願います、

くどい樣で有りますが以上申上ました憲法の箇條を倘一度列記致しますから何卒御銘記を願います、

第一、精神潔白にして親實なる事

第二、規則正しき事
第三、嚴格なる事
第四、謙遜なる事
第五、身體健康なる事
第六、看護法に熟達する事

雜纂

左の一篇は大阪在留の米國婦人ミッセス、チー、シー、ウヰン氏より同地の毎日新聞へ寄せたるものなりとて大阪私立衛生會の通俗衛生雜誌に掲出せるもの所說頗る適切なるをもて玆に轉載す

●日本の母樣へ御注告

米人ミッセス、チー、シー、ウヰン

貴社にて御親切に餘白を御貸し下さるの榮を給らば私は聊か大方の母親に御注告を仰ぎたいと存じます、それは私の常々希望いたして居つた事で日本人の身長の低いことにつき私の說を述べたいと思ひますので。日本人は平均他國民に比して身の長が低いと云ふことは國民一般が御承知になつて居ることでまた常にお歎きになる事實で御座ります、それのみならず西洋各國では平均段々身長が高くなつてまゐると申すのに御國では却て尙々低くなると云ふことを屢々耳にします斯く人類の發育上に異りたる傾向の現はれるといふのは何かそこに根本的の相違がなければならんと思はれます。日本人の身長が段々低くなることに付ては色々其原因を御述べになつた方も御座ります、然し私は尤も重大なる元因は小兒の出生前に母親が腹帶を固く締めるためではあるまいか

と思ひます、身體の組織の成立時分に形狀も恰好も定まるとすればまた同時に身體の大きさもちやんと定まる道理では御座りませんか、若しさうなれば腹帶で壓縮することは只一時に止らず永久に身體の大きさに非常な影響を及ぼすに違ひありません、私の調べました分では何處にも他に此國の樣に姙娠中腹を固く縛める習慣の流行する處はない樣です、また固くしめる事が流行して居る日本國に於て國民の身長が段々低くなると云ふのは實に意味ある事實と存じます。支那婦人の足を束縛する惡しき風俗に付ては樣々の人によつて種々に書かれたりまた說かれたりして其改革に付ては充分に世に紹介される樣になつて誠に喜ばしい次第で御座りますが、どうか日本でも婦人方が自身の身體を害せらるゝばかりでなく生れる處の者迄害せらるゝ此腹帶を用ふると云ふ、支那婦人の足を束縛するよりももつと重大な惡習慣を取り去るために大なる勢力を以て之が改革を計り度いものです。全體の日本人の御考へでは英國や米國の婦人は腹部を小さく見するために大變衣服をかたく縛めて着ると思召す樣ですが、それは間違つた御考へであると思ひます、若しそれが事實とすれば私にはとても此一篇を綴る勇氣は御座りますまい。教育ある婦人方は勿論御承知の事ですが腰を大きく致さなければとても腹部を小さくする事は出來ません、ですからさう致せば却て無格好になつてしまいます、私の知己のうちには日本の娘方が帶を結ばれる時にしめらるゝ程かたく縛めて衣服を着る人は一人も御座りません、そしてアメリカでは大抵一般に婦人は姙娠中誠にゆるやかに衣服を着まして帶の樣な物は一ツも用ゐません、其結果段々國民が丈け高き人種になつてゐると云ふとは絕えず識者の申す處で御座ります、近頃或大きな亞米利加の

女學校で教師が生徒一同に向つて此うちで十三歳で母親より身長のたかい人は立ちなさいと命じましたところ、殘つた者はたつた二人だけでみんなたつてしまつたそうです若しこれが日本であつたらどうでせう、私はどうしても母親と小兒の健康に、この國民の風俗が大關係を及ぼして居ると信ぜらるゝ理由があると思ひます腹帶を縛めるとは小兒の身體を大變壓へつけますから、身體の割に頭が大きう御座ります、そしてそれは此國に誠に多い腦病によほど關係がありますから實に憂ふべきとです、また妊娠中はそれでなくとも子供だけで隨分母親の身體は苦しみます、其上に腹帶などでしめるとはどうも天然に悖つたことです、壓迫されたる一部分は活動を失ひますから其結果として日本に非常に多いことを誰しも能く知つて居る一種の婦人病をひき起します、日本の産婆は疑もなく此悪習慣には大變に責任があると思ひます、一概には申されませんけれども通常産婆は無教育な人が多うございますから自分が國民の上にそんな弊害を及ぼして居るとなどは存じますまい。これは此國の學識ある醫師方に御注意を仰ぐべき隨分大切な事柄では御坐りますまいか、私は諸子が此私の説が事實ならざるや否やを御めい〳〵注意して御探究なし被下れんとを希望に堪へません、勿論これは眞に國民の身長に著しい進歩を見る迄にはどうしても數時代を要するとですから少しばかりの場合に此問題の是非を證明することは六ヶ敷いとです、しかし少しばかり私が視察いたしましたところでは日本の母親で小兒の生れる前に腹帶を用ゐない様に勸められて之をやめた方は、通例よりもよほど大きな丈夫な小兒を御持ちの様です、私は永らく此日本に住まつて居りまして此國民の幸福を實に喜んで居ります、また私は各方面に向

つて皆様が非常に長足の進步をなされたとを誠に誇りに思ひます、しかし小兒の出生前に之を壓縮する有害なる惡習慣を國民擧つてこれを癈する樣に、社會の意見が喚び起されないうちはとても達せらるゝ最高程度迄御進步なさるとは六ケ敷いことかと失禮ながら思ひます。

中外彙報

◉養生法の懸賞

佛國巴里の出版商「ハシエツト」商會に於て養生法を懸賞として募集せしにデコルチー博士は五百人の應募者中にて最高等の賞を得たりと其法は左の如し

一、家屋衞生　家屋は淸潔に開豁なれ家庭幸福なり

二、一般衞生　夙に起き早く寢ね晝間は事務を執れ

三、胃腸衞生　節食と節飮は長命の良藥なり

四、病毒衞生　淸潔は病に感染するを防ぐ淸く手入したる器械の永く持つが如し

五、睡眠衞生　充分なる休息は精力を恢復す休息過ぐれば怠弱となる

六、呼吸衞生　水とパンは命を保つといへども純粹の空氣と日光は衞生の必要物なり

七、精神衞生　心は寬和と娛樂にて養ふ而して過度なる時は情感を起して惡心を惹く

八、學問衞生　快活は生命を愛するの心を生ず是れ即ち健康の一部にして老て悲哀に堪ふ

九、職業衞生　腦は汝を養ふ者なり手足を佶倔ならしむる勿れ活潑を求めよ才學を研くを怠る勿れ

十、衣服衞生　温かく衣る者は善く衣る者なり以て氣候の變化を防ぎ又動作の自由を得るを要す

◉ホルムアルデヒート瓦斯

此瓦斯は消毒に尤も簡便なるものにして室內の消毒

は勿論衣服什器等は變色變質せしむるの憂ひなくよく消毒の効を奏するをもて東京市衛生常設委員會の例會に於ては此瓦斯を採用することを可決せりといふ此瓦斯應用の消毒所は淺草松葉町八十八番地東京瓦斯消毒所にあり尚深川區にある東京市の消毒所は市民一般の依頼に應じいと簡便に取り扱はるゝといふ

◉第六師團の禁食物

夏期は諸種の傳染病流行し且食物の變敗飲料水の不良等より種々の病症を牽き起し易きを以て第六師團軍醫部にては夏季衛生上訓示を發したるが其中禁食物として來九月三十日迄飲食を禁じられたる物品左の如し

一、(魚類)鮪、鰶、鯖、章魚、鰕、サワラ、刀魚、燒魚、生魚(假令へば刺身等の如し)

二、(貝類一切)

三、(調製品)揚物類、酢の物類、蒲鉾、燒豆腐、(新鮮なるものは此限りにあらず)肴の牛蒡卷、饂飩、冷そうめん、

四、(菓物)總て未熟の菓物、西瓜、甜瓜

五、(飲料)「アルコール」含有量多き酒類、ラムネ、氷、

六、(菓子)營内に於て調製せざる餡物一切

尚ほ前記の品物の外と雖ども不良品と認むるものは禁食物とするも土地の狀況により新鮮なる食品若くは嗜好を得るものは醫官の撿證によりて許可すべしといふ

◉小學校用の救急函

兵庫縣印南郡の學校醫なる井内中正氏は小學校用の救急函を製造し教育家の批評を求めしが是等救急用器具の準備は各家に於ても之を設備せば衛生上幾多の便益を得ること蓋し少からざるべし

右救急函は三個の抽き出しを有する單純なる木製函にして、

第一の抽出に膿盆、太きごむ管、鋏、ヒンセット、毛拔、消息子、小刀、體溫器等を備へたり帶尺耳鏡等の如き體格檢査用具をも備ふれば尙適宜なりとす

第二の抽出しには假繃帶の材料として卷繃帶、三角繃帶、亞麻仁油紙、撒絲、石炭酸ガーゼ、又は昇汞ガーゼ、脫脂綿、及冷罨法用として膀胱一二個を容る

第三の抽出には日常缺く可からざる藥品即ち二十倍石炭酸水、(用に臨みて稀薄になす)百倍石炭酸、チレーフ油、刺衝興奮劑としては赤葡萄酒、甘硝石精、アンモニヤ水を備へ、トラホーム患者用としては點眼水、及點眼瓶を容れ英吉利絆瘡膏、單軟膏、若くは石炭酸軟膏、メートルグラス、コップ、創洗用ゴム球等にして其他兒童の下痢を治するもの及嘔吐、嘔氣、胃痛等に向て一時調和を取るが爲め二種の單純なる散藥を製し紅白包紙を以て之れを區別せり之れ簡易救急函の裝置とす、

◉鷄肉ソップと牛肉ソップの成分

鷄肉と牛肉とは其成分に於て大なる差違はなきもの故に之を熟煮して製したるソップにも亦大差あるべき筈なしとダムマル氏の表によりて醫學士宮入慶之助氏の說く處によれば肉に含まるゝ處の蛋白質は熱煮によりて殆んど全く凝固するが故に其溶解して「ソップ」の中に移り行く分は極めて小量なり之に反して灰分の大部分、脂肪、膠質、及越幾斯分(クレアチン、クレアチニンカルニン、ザルキン、キサンチン、イノジン酸、乳酸等の「ソップ」の中に移り行くは大約次表の如し(ダムマル氏表)

蛋白質	〇、三——〇、四	(ソップ百分中)
灰分	一、二五——一、八	(同　上)
脂肪	〇、二——〇、四	(同　上)

膠質　〇、三—〇、七（同上）
越幾斯　〇、四五—〇、七七（同上）

鷄肉牛肉成分比較表（ダムマル氏表）

	水分	含窒素物	脂肪	無窒素物	灰物
鷄肉（瘠）	七六、三三	一九、七三	一、四三	一、二七	一、三七
同（肥）	七〇、〇六	一八、四九	九、三四	一、二〇	〇、九一
同（幼）	七六、二二	一九、三六	二、八五	—	一、二八
牛肉（瘠）	七六、三七	二〇、七一	一、七四	—	一、二八
同（甚肥）	五五、〇五	一六、七五	二九、二八	—	〇、九二
同（中肥）	七二、〇五	二〇、九六	五、四一	〇、四六	一、一四

されば鷄肉ソップと牛肉ソップとの成分の差はまことに僅かにしく殆ど之れ無しと云ふも可なる程なり唯其色及び其味ひの異るは其色素及び越幾斯分の性質多少相均しからずして主に今尚未詳の芳香物の兩肉に特有なるものあればなり

●良好なるソップの製法

尤もよきソップを製せんには先づ其肉をザット洗ひ（其必要なければ洗はざるもよろし）之を細かに切りて鍋に入れ適宜に水を加へ暫く置きて後之を煮るべし火は餘り强からざるをよしとす煮る時間は成るべく長く凡三四時間は煮るべし煮詰りて後之に水を加ふるときは大に味ひを損するものなれば水の分量火の强さ、煮る時間の長短等は大に手加減ありと知るべし

●「ペスト」豫防液の實驗報告

大學教授横手千之助君は豫て大阪市に出張を命ぜられハフキン氏「ペスト」豫防液注射療法を研究中なりしが此頃其研究報告を提出せられたるが今官報により其末項一節を拔萃すれば左の如し

前略ハフキン氏「ペスト」豫防法は種痘法の如く單簡にして確實の成績を上げたるが如き善良の豫防法にあらず然れどもハフキン氏其他學者の報告によるも多少效能あるは小官の信する所にして且其注射により危害を來すことなきは實驗するを得たるを以て今日の如く「ペスト」病に對し豫防並に治療法に就て未

だ適當の方法を發見せられざるの際にありて須らく該法を試むべしよしハフキン氏等の唱ふる如き効果あるものにあらずとするも注射により害の生せざる以上は之を試みて其効用の如何を判定するは醫學を修むるものゝ義務とす之を用ゆるに當り大に注意すべきは其製法なり若し滅菌不充分にして生菌の殘るあらば危險測るべからず宜しく細菌的智識を充分に備へたる人の責任を以て製したるものに非ざれば使用せしむべからず云々

◉東京市出産死亡及結婚離婚數（五月中）

出産　二、六〇七　內{男一、三〇六 女一、三〇一}　死亡　二、一五三　內{男一、一三一 女一、〇二二}
右の外死胎出産は二百二なり
結婚　九九〇　前月比較增　八四　離婚　一四〇　前月比較減　一二

◉看護婦規則の發布

看護婦取締規則は東京府令を以て去一日より同規則第廿五條を發布され本年十月一日より施行さるゝ筈なるが今其要領を記さんに第一章の通則には

一　看護婦の業を營まんと欲するものは年齡滿二十年以上の女子にして府廳の試驗に及第したるものにあらざれば免狀を下附せざる事
一　看護婦は主治醫の指示を受くるにあらざれば治療に關する手術又は投藥をなすことを得ざる事
一　看護婦は無免許の者をして代つて看護を爲さしむる事を得ず但し現に看護の方法を指示し一部の補助を爲さしむるは此の限りにあらずとの事
一　看護婦組合を設くる時は其の規約書類を添へ認可を受くべき事
一　瘋癲白痴不具癈疾となり其の業を營むに堪へざるものは免狀を返納せしむとの事

とありて第二章試驗の部分には

一　看護婦試驗は每年五月、十一月の二回東京府廳に於いて興行する事
一　試驗は看護法、解剖生理の大要、傳染病豫防消毒方法にて是れに卒業したるものは實地試驗をなす事

第三章罰則の中には、

一　看護婦にして禁錮以上の刑又は本則に依り科料に處せられたる者其の他業務上不正の行爲ありたる者は其の業を停止し若くは二箇年以內停止することあるべしとの事
一　禁止或は停止せられたる時は五日以內に免狀を返納す可し
一　無資格にて免狀を使用し又は是れを他人に貸與したるもの及び免狀返納を怠りたるものは廿五錢以上九十五錢以下の科料に處すとの事
一　免狀記載の事項に異動を生じたる際住居を轉じたる時組合設置の時其の屆出を怠りたるものは一圓五十錢以下の科料に處すべき事

尚附則として

一　此規則發布以前二ヶ年以上看護婦の業を營みて此規則發布後六ヶ月以内に出願するものは府縣廳に於て適當と認むるものに限り試驗を要せずして免狀を下付すとの事

一　本令は官、公、私立病院内に於て使用する看護婦に適用せずとの事なり

◉無菌牛乳

乳牛に結核病の多くして牛乳の危險なることは需用者の常に恐るゝ所なるが今回醫師角倉賀道氏は神田三崎町に愛光社と云へる牛乳販賣所を設け牧塲を巣鴨に置き無菌牛乳を販賣せりとの案内に接し牧塲を觀覽せしが牛種は何れも雑種多く皆ツベルクリンの試驗に及第せるものにて目下五十四頭あり搾乳後は除臭器にかけて臭氣を去り「レパレートル」にて汚物を去り空瓶は蒸氣室にて殺菌して牛乳を充て瓶口には綿を挿入し木栓にて密閉し再び之を熱室に入れて後發賣するものなれば尤も安全なるものにて臭氣を嫌ふ婦人方には尤も適當なるべしと角倉氏は説明せられたり兎に角此方法を始終嚴密に履行するに於は蓋し一歩を進めたる良好の者と云ふべし（一合付六錢）

◉近事談片

●神奈川縣にては初發以來去六日迄に赤痢患者百八十四人死亡十七人現在百十人なるが昨年同日に比すれば二百名許の減少なり●曩きに發布されたる各町衞生組合設置の事は各區にても夫々準備中のよしなるが赤坂にては組合費の徴收法は建坪一坪に付六厘づゝとなせしよし尚他區にても徴收額の多寡に付ごた〳〵し居る向も少からずといふ●神奈川縣依知村にては天井の古俵に赤痢患者を隠し置きたるものありしが遂に發覺せられて告發せられたりと衞生思想の乏しき田舍には此類殊に多し●本年一月より五月に至る脚氣患者市部男百〇一、女七二、郡部男一三、女三、合計男一一四女七四にして何れも郡部には極めて少し●清涼飲料水取締施行規則は内務省令第三十七號により發布せられたるが其内ラムネに關す

る分は即日より施行し果實水、薄荷水、及び桂皮水、曹達水、其他炭酸含有の飲料水に關する分は來る九月一日より實施の筈●北里博士のハフキン豫防液は獨逸流の製造に倣ひたるものにして凡六万人分の分量ありと其注射の分量は淡き方は一、濃き方は〇、五センチメートルを注射すればよろしかるべしと●注射は大坂市民を片つ端から强制的に注射するに非ずして注意區なりペスト發生の近傍より任意的に施すものなりと●秋期醫術開業試驗を東京府へ出願したるものは總數二、八五四内前期一、四五四内女二四後期一、〇九四内女九人實地二一一内女六齒科一四〇内女一、昨年に比し一四二の增加なりと●大坂三軒屋の紡績會社の職工千二百名中にて發熱三十七、五より三十八度のもの三十名ありしことを發見し是等のものに對してはハブキン液注射することを見合せしとのことなるが他日工場取締上の一問題として研究の價ひありといふ●神奈川内鄉村榎本某の二女(四ッ)は突然下痢を催すと共に數回の吐瀉をなして死亡せしとの事なるが吐瀉物に蛇いちごのありたれば多分此物の中毒なるべしといふ●理髮所にての消毒は人を見て行ふ傾きあり始終監查するにあらざれば寸効なきに至らん●女髮結の持參せる道具の如き又危險なり殊に女髮結の無敎育なる耳家に出入して世を荼毒すること少からず是等は一の學校を設けて敎育衛生等の事を修めしむべしとは二六新報の所說●東京駒場なる農科大學の家畜病院は七月十一日より來九月十日まで夏期休業をなす◉行政執行法いよ〳〵實施せられてより淫賣婦の反則は一日平均一人半に當り居るといふ健康診斷は當分警視廳第三部にて行ふ由なり◉赤十字社準備看護婦規則は次號に出すべし◉全國の醫者の數は四〇、二八七藥劑師は三、二八一●本月一日より十日迄の全國

赤痢數五百九十四人內死亡八十六本年初發よりの患者二千〇九十七人死亡三百三十六人●ペスト本月一日より十日迄に患者二人死亡三人本年初發よりの總數八十一人死亡八十五人なり●北里博士は大坂に於てハフキン液注射豫防法に就き演述せられ危險の虞れなきことを熱心に說明し北里氏先づ自から聽衆の面前にて第一着に注射を受け其他菊地知事及各高等官撿疫　官撿　疫醫その他希望の人々に注射し之より盛んに注射豫防法を實施すべしと云ふ



養生訓

日光消毒　朝夕及び冬の日の斜光線は消毒の力弱し夏期中の光線は消毒に尤もよろしとす●單衣、袷等は之を裏表より日光に晒せば消毒の効を奏すれども綿入、布團等の如く光線の透入し易からざるものは煮沸或は蒸氣消毒によらさるべからず●確實なる日光消毒の區域はまことに狹く實際安全なる消毒法は內務省令に言ふ所の一、燒却二、蒸氣消毒三、煮沸消毒四、藥物消毒の四種とす●追々暑氣强くなり酒類の腐敗を防がん爲め諸種の藥品を加へたるものありザリチル酸の入りたるものには過クロール化鐵(藥舖にあり)一オンス許の二百分一を一オンスの水に溶き之を試驗せんとする酒中に二三滴加ふへし若し暗黑乃至暗紫色を呈するものは「ザリチル」酸の入りあるなり●昇汞水の有無を知らんには硫化アムモニヤ(藥舖にあり)二三滴を加へ暗黑色を呈すれば昇汞存在の疑あるものと知るべし●葡萄酒の少量を數分時間煮立てるに純正のものは毫も變化せされども若しニゴリを生ずれば不正なるものと知るべし●松根油(即テレビン)の効能　火傷したるとき皮膚の破れざる間に塗れば速に痛みを去る●皮膚に水泡を生じたるときに塗れば水泡は直ちに消失し痛みも

去るべし●鼠穴には古布へ此油を浸し塞き置けばよく鼠を驅除し得べし●衣服にペンキ等の附きたる之を楊子に付けて洗ふべし油氣の付きたるにもよろしけれども油氣には「ベンゾル」尤もよろしとす俗に云ふ生け洗ひに之を用ゐれば尤もよし●海水浴の時期となりしをもて一二の注意　アマリ暑いとて身躰の熱するに拘はらず直に水に入るは悪しく俗に云ふコソラのカエるものなりよく汗を拭ひ温度の冷へたる後よく手足指先等身躰各部をもみたる後になすべし●脚氣のある人は遊泳は禁物なり心氣亢進して心臓痲痺と云へる命取りの病ひを起すの患ひあり●海浴などするには少なくも寶丹位は用心せねばならぬ●海には水母とか「おこぜ」などありて時々刺さるゝことあり其痛さは何んともカトモ言へぬ程なり之れには「アンモニヤ」を附ければすぐによくなる蜂などにさゝれた時も又効ありこれは是非とも用意せねばならぬ●海浴をしたあとはよくフラチルの腹巻をなし冷へぬ様なすべし●小供などの川を泳ぐに屢々皮膚病にかゝることあり水虫、インキンすりむけ等も容易に治らぬものなり慢性のものには禁物なるも此頃市中に販賣せる一二三と云へる賣藥はのみに食われたりスリむけデキもの等に効能あり●又小供が汚ない川で泳ぐと目を悪くする是れはモグリて目をアキ居るが爲なりサリとて目をあき居らねば何にが流れて來るか分らずして危險なれば清き川にて充分なる監督の下に遊泳せしむるをよしとす●山坂を上るにも又遊泳するにも總べて呼吸は鼻にてなし口は塞ぐべし疲るゝこと少し●ソマトーゼは肉製品にして百瓦中蛋白質牡牛肉なれば千グラムに當り雞卵なれば凡二十五個に相當し、牛乳なれば凡二升五合（五千グラム）に當る●ソマトーゼと牛乳と鷄卵との比較に於ての優點は前者にありては大部蛋白より成り後者は蛋白の外尚滋養上必用の成分を含む只蛋白のみを以て論ずれば後者は前者に比して蛋白分を多く用ゐべき割合なりとは池口藥學士の所説●大腸カタルは急性のものにて往々小兒にありては血液或は粘

液を混することあれども之は誠に稀有のものなれば我國の如き赤痢の流行する地にありては此等の手當は赤痢として處置するは最も安全なりとす



大日本婦人衞生會記事

會報

本會は各位の御熱精により月々多數の會員も增し次第に盛況に向へるは誠に敬謝の至に堪へざるなり本會雜誌も追々改善を加へ來りたるが本會の擴張と共に印刷料は勿論其他の經費も從て多分を要し毎月收入の會費のみにては屢々不足を生ずる場合少からず依りて去月廿五日役員會を濱尾副會長の邸に開き此件に就き相談せり本會の貯蓄金とても未だ少額なれば不足に任せ支出する時は忽にして消盡するの恐れあり會費增額の事は本會の普及發達に影響すること不少ざればとて此際本會の役員一同は左の如く臨時寄附金せられたり會員さへ多數增加せば收支相償ふことなれば事務所に於ても精々入會者の誘導を圖るべきも尙全會員諸氏の御協力あらんこと切望の至りに堪へざるなり

追而會員御誘導の爲め規則書御入用の節は直ちに送附可仕候

役員寄附金

金拾圓	子爵夫人	仁禮壽賀子
金七圓		濱尾作子
金五圓		鳩山春子
金五圓	男爵夫人	西靜子
金五圓		穗積歌子
金五圓		高木かう子
金五圓		松平芳子
金五圓		宮下咲子
金五圓		三浦數子
金五圓	男爵夫人	岩崎早苗子
金五圓		濱田捨子
金五圓		羽田三緒子
金五圓		西升子
金參圓		德富靜子
金五圓	伯爵夫人	大隈綾子
金參圓		緒方悅子
金參圓		岡田德子
金參圓		加藤鈴子
金參圓	男爵夫人	加藤常子
金五圓	子爵夫人	田中い代子
金五圓		丹波貞子

金五圓	男爵夫人	南部 限子
金參圓		中濱 芳子
金五圓	伯爵夫人	松平 光子
金貳圓		馬渡 玉子
金五圓	子爵夫人	秋元 宗子
金參圓		木内 磯路子
金參圓		宮本 樂子
金五圓		三非 晴子

合計金百參拾參圓也　（姓名イロハ順）

●御斷り　七月は都合により集會を休み八月九月は暑中に付規約の通り集會を休み候（但し雜誌は年中無休刊）

◉山形支會の六月例會

六月三日なる第一日曜日には差支ありしをもて第二の日曜（十日）に山形市高等女學校内に例會を開きたり來會者四拾餘名當日の講師なる吉村春柳君（嗜好品に就て）醫學士川上雅昰君には（産婦の養生）星野衛戍病院長には天然營養法に就き何れも懇切に講話せられ午后四時閉會せりといふ

◉七月例會

七月一日午前八時より例會を高等女學校に開く來會者四拾餘名川上醫學士には新任濟生館副館長醫學士北島小太耳君を會員一同に紹介せられ猶今後支會講師として盡力せらるゝよし述べらる次に吉村春柳君には前會に續きて嗜好品につき川上醫學士には産蓐及ペストに付講話せられ十一時閉會せりといふ

◉山形支會々報

●支會講師なる醫學士川上雅昰君には今般山形市濟生館長に榮進せらる

●同支會幹事なる千葉てる子には支會創立發起人の一人にて是迄御盡力淺からざりしが今回東京市へ移轉せられし爲め幹事の任を辭されたり本會は玆に同氏に對し謝意を表す

●醫學士淺田決君の宇都宮へ轉任の際送別として役員以下の撮影を本會へ送附せられたり他日諸姉に示すことあるべし

●山形支會例會八月は暑中の爲休會と定めたりと

◉會員種類變更（七月分）

●本會の部

特別會員　舊通常會員　侯爵夫人　鍋島榮子
特別會員　舊通常會員　青木すゞ子
特別會員　舊通常會員　弘田益子

●山形支會の部

特別會員　舊通常會員　沖野りう子
特別會員　舊通常會員　葛たみ子
特別會員　舊通常會員　小田切とわ子
特別會員　舊通常會員　加藤やす子
特別會員　舊通常會員　西野きぬ子
特別會員　舊通常會員　安村かつ子
特別會員　舊通常會員　關むら子
特別會員　舊通常會員　川上きん子
特別會員　舊通常會員　丸山ちせ子
特別會員　舊通常會員　關根たか子
特別會員　舊通常會員　加藤隆子

本會入會者（自六月中旬至七月中旬）

○牛込　和田愛子紹介
●牛込區市ケ谷加賀町二ノ十八番地　通常會員　藤森若枝子

○胃腸病院　鈴木つる子紹介
●小石川區原町百二十六番地　通常會員　三崎とめ子

○芝　加藤きく子紹介
●芝區田町九丁目十番地　通常會員　加藤みよ子

○事務所申込及事務所員紹介
●神戸市西出町二十四番邸産科婦人科院　賛成員　大島喜馬太君
●上毛伊香保町二十番地　通常會員　石坂きん子
●兵庫縣但馬國養父郡口大屋村　通常會員　三方東子
●越後國中蒲原郡茨曽根村　賛成員　關根熊彌君
●芝區明舟町十八番地　通常會員　木村芳子
●淺草區小島町四十八番地　賛成員　松本一君
●深川區富吉町二十番地　賛成員　中村久三郎君
●長崎師範學校内　賛成員　美島匠一郎君
●周防國都濃郡德山二番町　通常會員　辰野たつ子
●東京日本橋區箱崎町三丁目二番地　通常會員　塚原梅子
●麹町區永樂町永樂病院内　通常會員　中尾重子
●駿河國志太郡豐田村字小土　通常會員　萩原のぶ子

○日本橋區杉浦糸子紹介
●日本橋久松町二十九杉浦方　通常會員　竹内いち子

○山口　久保田不二子紹介
●長州赤間關市豐浦郡生野村字大坪　通常會員　石川暢子
●山口縣吉敷郡上宇野令村字糸米　通常會員　野田清子

○幹事　高木かう子紹介

●北海道室蘭公立病院內　通常會員　川合きよ子

○移轉の為め山形支會より本會へ入會

●東京芝西久保櫻川町六番地　通常會員　千葉てる子
●宇都宮小袋町　通常會員　淺田とみ子
●日本赤十字社病院外勤部　通常會員　末松とめ子
●宇都宮小袋町淺田方　通常會員　吉田いと子
●長野縣女子師範學校　通常會員　時岡くめ子
●山形縣南村山郡上ノ山鶴脛町　通常會員　石黒もと子
●山形縣西田川郡鶴岡町鳥居町六十九　通常會員　佐々木としゑ子
●山形縣東村山郡天童町　通常會員　藤山みゑ子
●山形縣西村山郡白岩村　通常會員　白田みを子
●京都市私立藥學校　通常會員　松田りつ子

○新入會者　山形支會へ申込

●山形市旅籠町四〇六　通常會員　渥美都麻子
●山形市七日町字長源寺町　通常會員　國井さざ子
●山形市横町　通常會員　石川とも子
●山形市東村山郡山邊町　通常會員　遠山てる子

○麻布　河合なよ子紹介

●芝區小山町二番地　通常會員　山田とめ子

○芝　三浦銈子紹介

●深川區富岡門前東仲町八番地　通常會員　林田曉子

轉居



會員諸氏御轉居の際は必らず乍御手數事務所宛御一報相願候

●麴町區平河町五丁目四番地へ　澤とよ子
●麴町區三番町二十番地へ　松本正木子
●肥前國佐世保中通又五番戸へ　淺野鎌子
●淺草區新福富町四番地へ　前田てう子
●熊本市出町一二六分銅藤五郎方へ　佐藤粲子
●讃州高松市天保前四十一番戸へ　黒田哲子
●長崎縣佐世保港大久保上等水前へ　丹治春子
●上野國新田郡太田町二丁目へ　三浦ふみ子
●淺草明治病院へ　山本かよ子
●第二醫院へ　田中みね子
●牛込區市谷甲良町三十四番地へ　松下貞子
●下谷區池端七軒町廿七番地藤堂忠次郎方へ　中村しげ子
●青森市新安方町縣廳通角へ　竹中成憲君
●仝　竹中許子
●芝區高輪車町十番地乙部方へ　岡部小春子
●芝區車町十五地へ　市村み保子
●山口縣豊浦郡宇後田三百二十一番地へ　瀧川みち子
●京橋區弓町二十四番地へ　吉松春賀子
●麻布區飯倉六丁目廿二帝國用達社內へ　矢島とら子

●牛込區仲町三十四番地へ　和田垣つね子
●麹町區三番町二十番地へ　河原久子
●麹町區三番町三十四番地へ　榊貫子
●小石川區久堅町七十一番地へ　牧野英子
●神田區駿河臺北甲賀町十番地へ　一井てい子
●神田區駿河臺袋町十三番地へ　濱田捨子
●麻布區笄町百二十九番地へ　福永淺子
●麹町區上六番町七番地五十嵐邸へ　志賀かま子
●芝公園廿四號光照院內へ　田中てる子
●芝高輪車町七番地へ　伊東雪子
●芝三田豐岡町五十八番地へ　水谷まち子
●向島小梅町二百十三番地へ　深井せい子
●本鄕區西片町十番地は廿四號へ　近藤幸子
●肥前國佐世保村字福田五番戸ノ五號へ　石田たけ子
●赤坂區青山南町六丁目十五番地へ　柴田つる子
●四谷區鹽町一丁目四番地內海利助方へ　松澤乙加子
●麻布區笄町百十八番地へ　沖喜代子
●上野國新田郡大島村へ　三浦ふみ子

弔詞

本會通常會員倉田香名子には本月十一日永逝せられたるの報に接し本會は

謹みて哀悼の意を表す

●住所不明

本會名簿整理致し候處左の諸氏住所不明に付御承知の方は乍御手數御一報奉願候

●元四谷本村町三十九　本鄕いく子
●京橋宗十郎町一番　高松よし子
●神田錦町一ノ二木內方　內山松榮子
●赤坂臺町十四　大西幾子
●芝西久保葺手町十四　森こと子
●牛込區市谷加賀町二ノ三十一　頭山立子
●牛込區榎町十七　酒見ふさ子
●麻布新網町五十三　三村久子
●牛込區揚場町十三竹內方　宮武ゑい子
●本鄕區金助町　萩谷まさ子
●本所外手町五十三多賀方　宇藤かつ子
●淺草三筋町五十七　寺田とく子
●日本橋濱町二ノ十一　宮本いく子
●麹町有樂町二ノ十二　鈴木たか子
●神田區皆川町四　尾關つる子
●麻布笄町百二十五　土川たづ子
●麹町區上二番町女子學院　駿河翠子
●麹町土手三番町十六　山本えい子
●神田區柳原河岸十二　山本らく子
●神田區紺屋町八　山田政子
●麹町有樂町一ノ十五　奥村ちゑ子
●長野市東中町　玉林あや子
●橫濱山手百一番　ベル夫人

産科婦人科學雜誌

發刊　每月十五日

代價　每號金二十五錢

但會員ニ限リ郵税共無代價配布

會費　會員タラントセラル、方一ケ年金二圓ヲ要ス

本會發行ノ産科婦人科學雜誌ハ斯道ニ關スル內外ノ新說、實驗ヲ網羅スルヲ以テ專門家而已ナラス實地醫家ノ歡迎ヲ受ケ會員已ニ千ヲ超ヘ、漸次光彩ヲ放チツヽアリ、斯道熱心家ノ愛讀ヲ望ムコト切ナリ

明治三十三年六月

東京市日本橋區濱町三丁目七番地
産科婦人科楠田病院內
日本産科婦人科學會事務所

私立大日本衛生會

●新潟支會規則

第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條　當支會の會費は左の六種とす

終身會員	一時限り出金	貳拾圓
特別會員	毎月	金參拾錢
通常會員	仝	金貳拾錢
支會員	甲毎月	金拾錢
	乙仝	金五錢

第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す

第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす

第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名主事一名を置く
會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す
各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし

第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す

第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし

第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし
會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし

第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條　特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

私立大日本婦人衛生會

●山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す

第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く
會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す

第三條　役員の任期は一ヶ年とす
本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす

第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし
本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし

第五條　本會々費は會計幹事に納むべし
但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし

第六條　服裝は精誠質素なるを要す
上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

私立大日本婦人衛生會
山形支會
事務所山形市檜物町川上方

●大日本婦人衛生會規則摘要

一本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究せしめ衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

一會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

一入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員證を交付す

一會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

終身會員は一時に金拾圓以上●特別會員一ヶ月金貳拾錢以上●通常會員一ヶ月金拾錢を納むるものとす●男子賛成員亦同じ

一男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特別賛成員たることを望みたる者は役員協議に依り無會費とすることあるべし

一會員は本會に於て毎月發行する雜誌を無料にて受ることを得

一退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より又通知すべし但既納の會費は返戻せず

一集會は例會總會及評議會員とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午后一時より開會するものとす

但毎會學識經驗ある者に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

一會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむるを得(勸めて衣服は質素たるべきこと)

一講議演說等は男子の傍聽を禁す但賛成員若くは會員緣故ある男子は此限にあらすと雖も賛成員の外は本會の都合に由り臨時謝絕することあるべし

●支會

一地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出つべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尚詳細は本會事務所へ承合すべし

注意

一會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便取扱所(東京牛込郵便局)宛振出あるべし又通運便にても差支なし

一會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵劵にて納むるものは受領證送費として別に郵劵三錢を添へらるべし

但止むを得さる場合には郵劵を代用するも妨げなしと云へとも總て一割增とす

一轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せさるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

本誌定價壹部金貳拾錢(會員へハ無料)毎月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所 私立大日本婦人衛生會 東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者 田中德三郎 東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷者 戸上義章 東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 株式會社秀英舍第一工場

(明治二十六年 月 日遞信省認可)(明治二十一年二月二十八日內務省認可)